

National University Corporation
Gunma
University 2016



群馬大学
GUNMA UNIVERSITY

国立大学法人

平成28年度版

群馬大学概要

群馬大学は、上毛三山に抱かれた明るく豊かな自然風土の下、昭和二十四年に新制の国立大学として誕生した。それ以後、北関東を代表する総合大学として、有為な人材を育成するとともに、真理と平和を希求し、深遠な学理とその応用を考究し、世界の繁栄と人類の福祉に貢献することを目的として、その社会的使命を果たしてきた。

二十世紀後半は、科学技術の飛躍的発展と経済の繁栄に象徴される時代であり、同時に、人類の生存と繁栄の根幹に関わる諸問題が地球的規模において顕在化した時代でもあった。この中であって、本学は、教育学、社会情報学、医学、工学の各分野における教育及び研究を通して、真摯に時代の要請に応えてきた。

ここにおいて、群馬大学は、二十一世紀を多面的かつ総合的に展望し、地球規模の多様なニーズに応えるため、新しい時代の教育及び研究の担い手として、次の基本理念を宣言する。

基本理念

1. 新しい困難な諸課題に意欲的、創造的に取り組むことができ、幅広い国際的視野を備え、かつ人間の尊厳の理念に立脚して社会で活躍できる人材を育成する。
2. 教育及び研究活動を世界的水準に高めるため、国内外の教育研究機関と連携し、世界の英知と科学・技術の粋を集め、常に切磋琢磨し、最先端の創造的な学術研究を推進する。
3. 教育及び研究の一層の活性化と個性化を実現するため、大学構成員の自主性、自律性を尊重し、学問の自由とその制度的保障である大学の自治を確立するとともに、それに対する大学としての厳しい自己責任を認識し、開かれた大学として不断の意識改革に務める。

目 標

1. 教育の目標

- (1) 学生の自主的で創造的な勉学を促進する学修環境を整えるとともに、学生が本来持っている潜在的な能力とエネルギーを引き出すため最大限の支援を行う。
- (2) 教養教育においては、その重要性を認識し、全学的な協力体制の下、専門教育との連携を図りながら、幅広く深い教養、総合的な判断力、そして自然との共生を基盤とした豊かな人間性を涵養する。
- (3) 学部専門教育においては、教養教育との融合を図りつつ、各専門分野の最新の知見及び技術を修得しうる基礎的能力を育成し、豊かな知性と感性及び広い視野を持ち、学士力に裏打ちされた、社会から信頼される人材を養成する。
- (4) 大学院教育においては、高い倫理観と豊かな学識に立脚し、学部専門教育との関連を視野において、実践力を有する高度専門職業人及び創造的能力を備えた研究者を養成する。

2. 研究の目標

- (1) 専門分野において独創的な研究を展開するとともに、特に重点研究領域において国内外の大学・研究機関と連携して先端的研究を推進し、国際的な研究・人材育成の拠点を形成する。
- (2) 基礎的研究と応用的、実践的研究との融合を図り

産業界や自治体等との共同研究・共同事業を推進し、その成果を広く社会に還元する。

3. 社会貢献等の目標

- (1) 地域の知の拠点として学内外の関係機関と連携した活動を通じて、地域の文化及び伝統を育み、豊かな地域社会を創造する活動を行うとともに、知の地域社会への還元を推進し、産業の発展に貢献する。
- (2) 地域医療を担う中核として医療福祉の向上にあたるとともに、地域住民の多様な学習意欲や技術開発ニーズに応え、地域社会の活性化に貢献する。
- (3) 国際的視野の下で教育研究を充実する観点から、留学生の受け入れ及び本学学生の海外派遣を推進するとともに、海外の大学等との学術交流や教職員の国際交流を進める。

4. 大学運営の目標

- (1) 学長のリーダーシップの下で経営戦略を明確にし、大学構成員の能力を引き出し、自主性、自律性を持って効率的な大学運営に当たる。
- (2) 大学内での情報共有化と社会に対する大学情報の積極的な発信に努め、学内外への説明責任を果たす。
- (3) 不断の点検・評価と改革を推進し、大学の活力を維持発展させるとともに、大学の諸活動の質的向上を図る。

(平成22年4月1日)



目次

〈プロローグ〉	
理念及び目標	表紙裏面～1
目次	3
学長からのメッセージ	4～5
〈組織・運営〉	
歴代学長	6
沿革	6～7
管理運営組織	8
事務組織	8
教育・研究組織	9
役員・執行役員・副学長・学長特別補佐・顧問	10
学長選考会議・経営協議会・教育研究評議会	10
学部長等	11
〈大学・大学院等〉	
教育学部	12～13
社会情報学部	14
医学部	15～16
医学部附属病院	17
理工学部	18～19
生体調節研究所	20
総合情報メディアセンター	20
大学教育・学生支援機構	21
研究・産学連携推進機構	22
重粒子線医学推進機構	23
学内共同教育研究施設等	24
共同研究拠点等	24
〈特色ある研究・教育・社会貢献活動〉	
主な教育研究補助金採択状況	25
平成27年度地域貢献事業一覧	26
公開講座・開放講座〔平成28年度〕	27
〈学生状況〉	
学生の数	28～29
入学志願状況等	30
学部入学者の出身地区別内訳	31
卒業・修了者数・学位授与者数	32
卒業後の状況	33
〈国際交流〉	
国際交流協定	34～35
外国人留学生数	36
〈財務状況等〉	
平成28年度収入・支出予算額	37
研究費等受入状況	38
職員の数	39
土地・建物面積	39
〈キャンパス〉	
学部等所在地	40
学部等所在地分布図	41
建物配置図	42～45
交通アクセス	46～48
学生歌	49



群馬大学荒牧地区



学長からのメッセージ

群馬大学長 平塚 浩士

Hiroshi Hiratsuka

群馬大学は、伝統を活かし、地域と共に、知的な創造を通じて世界の最先端へとチャレンジし、21世紀を切り拓くことを目指しています。昭和24年に制定された徽章は上毛三山が大学を囲んでいるデザインになっています。上毛三山の中で大学キャンパスから一番近い赤城山は、広い裾野を持っています。群馬大学もこの赤城山のように広い知の基盤を形成し、その基盤の上にリージョナルからグローバルまで、様々なレベルで知の峰を創り、世の中に発信していく大学になっていきたいと思っています。

群馬大学を構成する教育学部、理工学部、医学部、社会情報学部のルーツはそれぞれ、明治6年に開所した小学校教員伝習所、大正4年設置の桐生高等染織学校、昭和18年に開校した前橋医学専門学校、平成5年設置の社会情報学部まで遡ることができます。明治、大正、昭和、平成という近代日本それぞれの時代の要請に応える形で生まれ、変革しながら高等教育機関として地域の知の基盤を作ってきました。

現在の群馬大学は、このような歴史の上に培われた伝統をもとに、新たな展開を図っています。現代社会の変化に迅速かつ的確に対応するため、平成26年度には大学運営体制の変革を行いました。学長を中心とする役員会は、中長期的なビジョンのもとに、教員ポストの配分、教育研究スペースの配分、予算の配分を行います。そしてこれらを大学運営に確実に反映させる仕組みとして、新たに執行役員会議を設置しました。この会議は、学長、理事に加えてメンバーに学部長や研究科長等を執行役員として指名し、学部等現場レベルでの業務を大学全体の運営を視野に入れながら機動的に行うことを目指します。さらに、企画戦略会議では、学長の下で大学全体にわたる改革などについて分析と企画を行うこととしました。

このような組織体制のもとで、大学の最も重要な資源である教員ポストについては、従来の部局に定員が張り付いていた概念を一新し、学術研究院を設置して教員組織の一元化を行いました。すなわち、総ての教員ポストはこの仕切りのない単一の組織である学術研究院に属し個々の教員は、この一元化された学術研究院から学部、大学院、研究所、機構、センター等の大学内の様々な組織に出向し、教育、研究、社会貢献などの大学業務を行います。このような仕組みは、学部、大学院等の組織に定員が張り付いておらず、大学全体を見渡した上での人的資源の最適な配置が可能となる大きな特徴です。文部科学省によるミッションの再定義等を受け、国立大学改革プランのもとで大学改革を行うにあたり、学内の状況を常にモニターしながら柔軟かつ迅速な人員配置を行い、大学全体として最大の成果をあげることを目指したものです。

平成26年度には未来先端研究機構を設置し、重粒子線治療を核とした統合腫瘍学と、内分泌代謝・シグナル学の二つの分野の振興を図っています。海外の研究者も招き、真にグローバルな発信拠点を目指しています。これを契機として、生体調節研究所と医学系研究科の強みがさらに強化されることが期待されます。保健学研究科では、以前から推進してきたチーム医療の普及と研究活動が世界保健機関（WHO）に認められ、平成25年に群馬大学はこの分野では国内唯一のWHO Collaborating Centreとして指定を受けました。理工学府では、昨年創立100周年を迎え、理工学府への改組の理念を活かして、次の時代を先導する研究・開発とイノベーションを担う人材の養成を行うとともに、医理工連携事業に取り組んでいます。医学部附属病院は地域の医療拠点であり、医療イノベーションを先導していきます。教育学部は、少子化の中で地域の教員のリーダーを養成するために教職大学院の充実と修士課程の改革を進めています。社会情報学部は、社会の大きな変革に対応するための改革に取り組んでいます。

群馬県と連携して推進している重粒子線がん治療プロジェクトでは、治療開始以来累計で2000名を超す患者さんを治療しました。人材養成では、博士課程教育リーディングプログラム「重粒子線医工学グローバルリーダー養成プログラム」を行ってきました。さらに、平成25年の「群馬がん治療技術地域活性化総合特区」認定を受けて医療機器分野の産学連携も進んでいます。

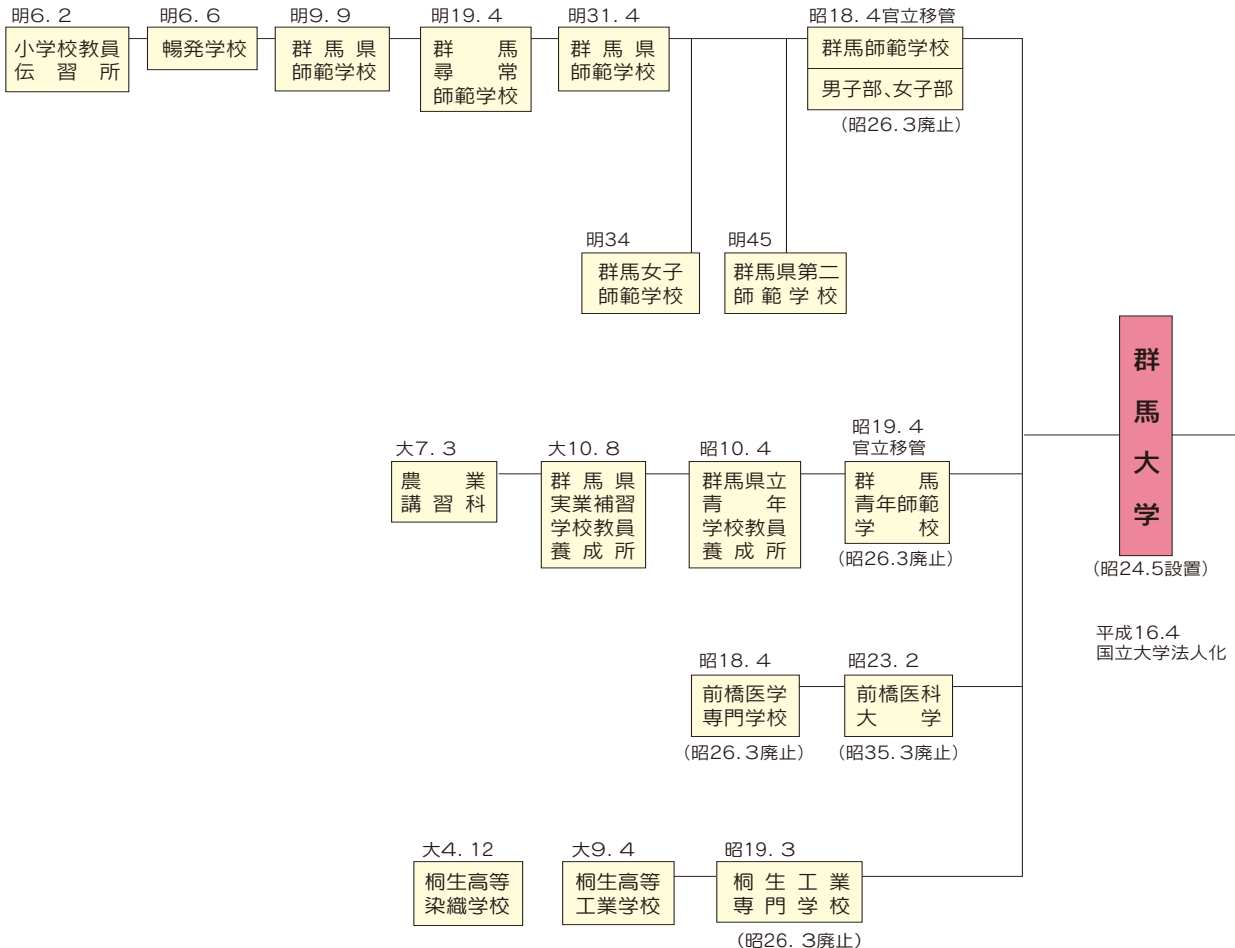
平成28年度には、高度情報化社会の課題を発見し、その解決策を科学的な思考と実践的な情報処理やデータの収集・分析によって提案できる人材を養成するため、社会情報学部を2学科制から1学科3ディレクション制に改組し、新たな教育を実施します。

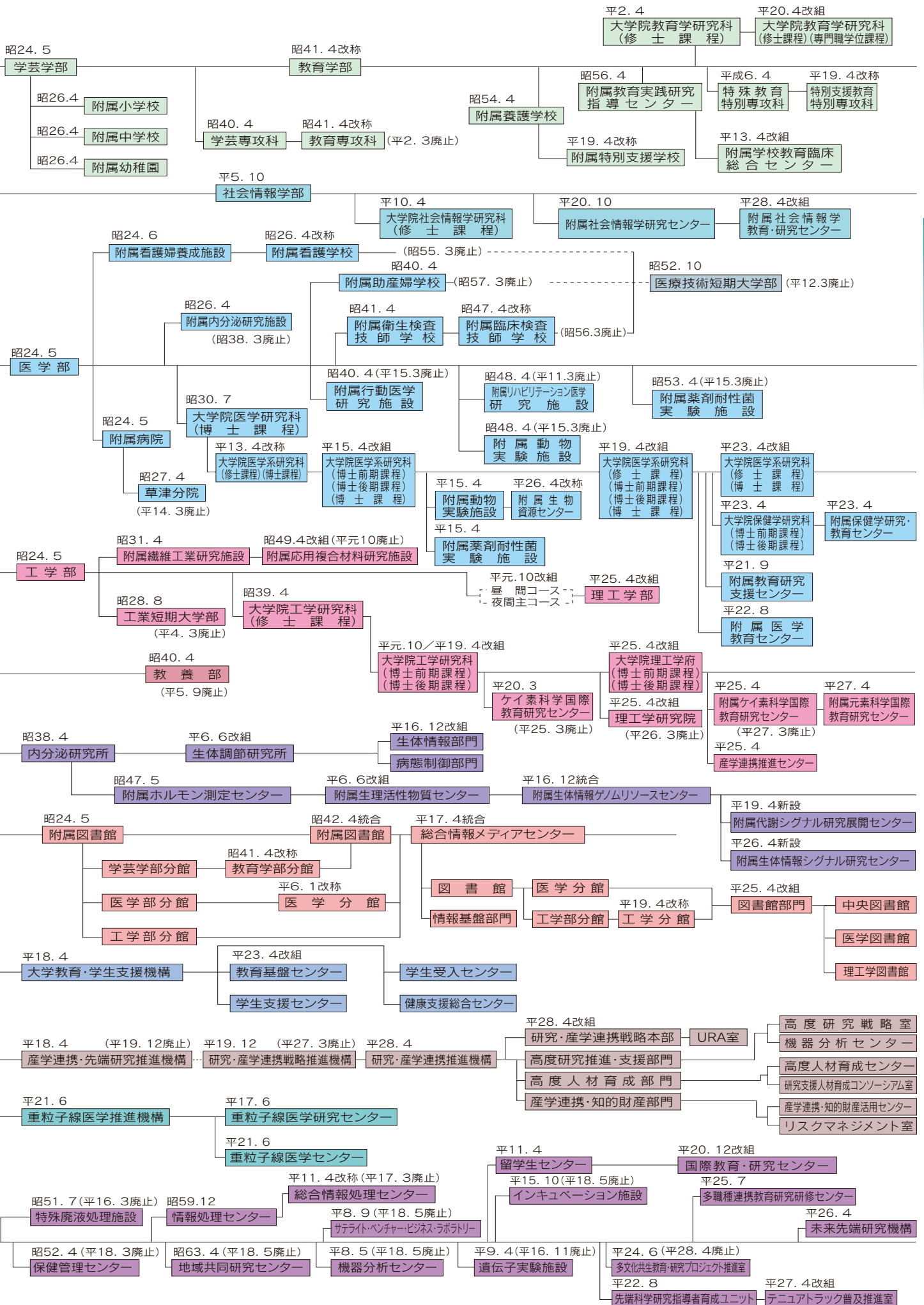
グローバル化の本質は、地域が全世界と直結していることです。このような時代に活躍する人材の基盤を形成するための新しい科目として「学びのリテラシー」の導入、英語教育の改革、留学支援などを推進しています。さらに、次世代のリーダー養成のためのグローバル・フロンティア・リーダー（GFL）育成コースの全学部での開設など、群馬大学は常に自己を見つめ直しながら改革を行い発展を図っていきます。

歴代学長

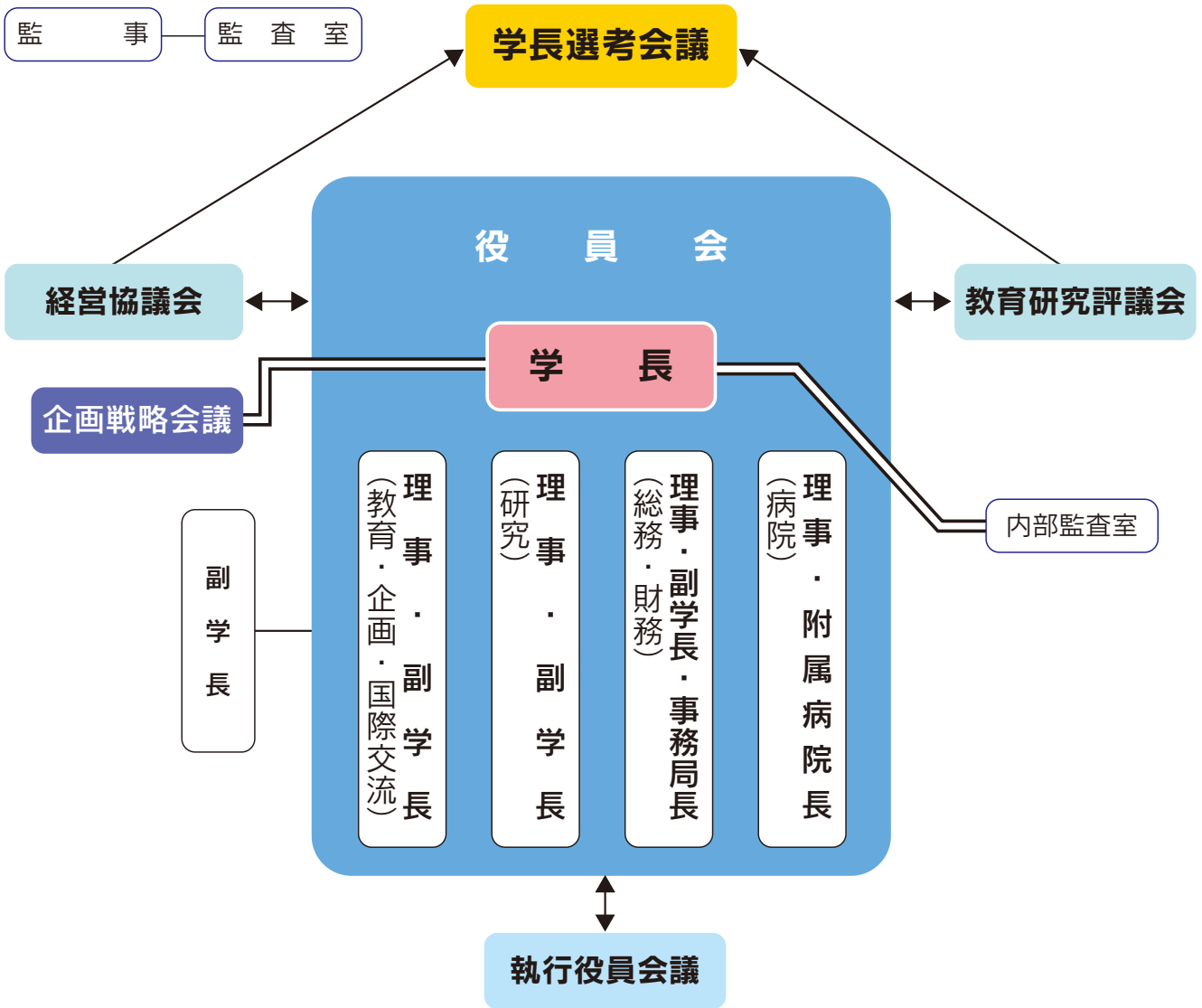
代数	氏名	在任期間
初代	西成甫	昭和24. 5.31 ~ 昭和36. 6.20
(事務取扱)	相葉伸	// 36. 6.21 ~ // 36. 7.13
第2代	長谷川秀治	// 36. 7.14 ~ // 42. 7.13
(事務取扱)	柴田勝博	// 42. 7.14 ~ // 42. 8.31
第3代	秋月康夫	// 42. 9. 1 ~ // 46. 8.31
(事務取扱)	町田周郎	// 46. 9. 1 ~ // 46.12.15
第4代	石原恵三	// 46.12.16 ~ // 50.12.15
第5代	畑敏雄	// 50.12.16 ~ // 56.12.15
第6代	小野周	// 56.12.16 ~ // 60.12.15
第7代	前川正	// 60.12.16 ~ 平成 3.12.15
第8代	石川英一	平成 3.12.16 ~ // 9.12.15
第9代	赤岩英夫	// 9.12.16 ~ // 15.12.15
第10代	鈴木守	// 15.12.16 ~ // 16. 3.31
(国立大学法人) (群馬大学長)	鈴木守	// 16. 4. 1 ~ // 21. 3.31
第11代	高田邦昭	// 21. 4. 1 ~ // 27. 3.31
第12代	平塚浩士	// 27. 4. 1 ~ 現在

沿革

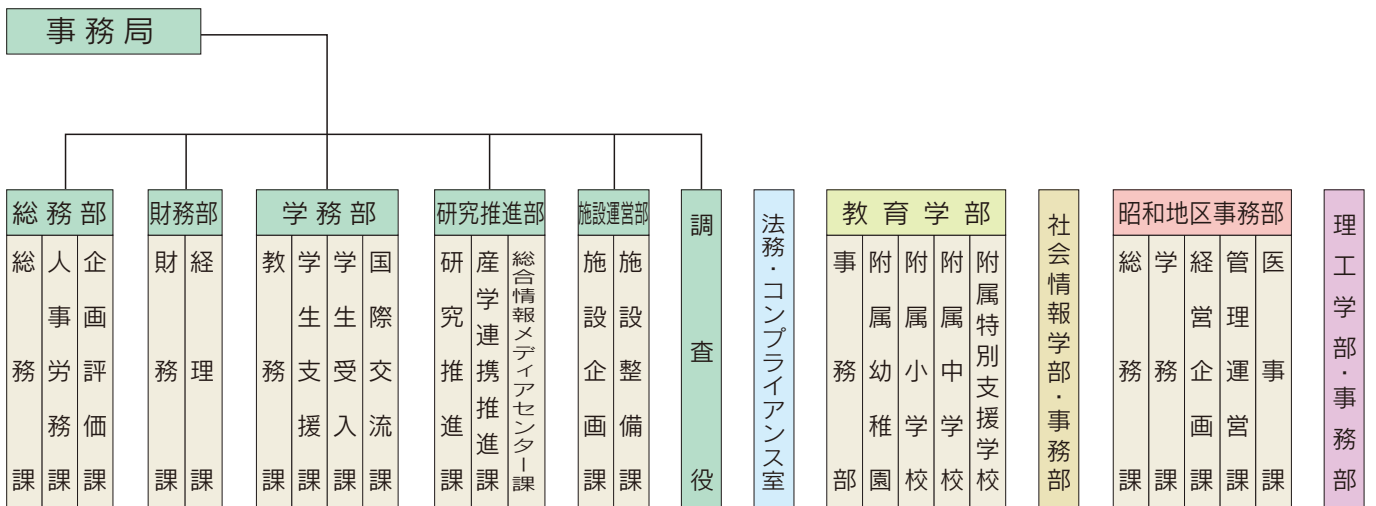




管理運営組織

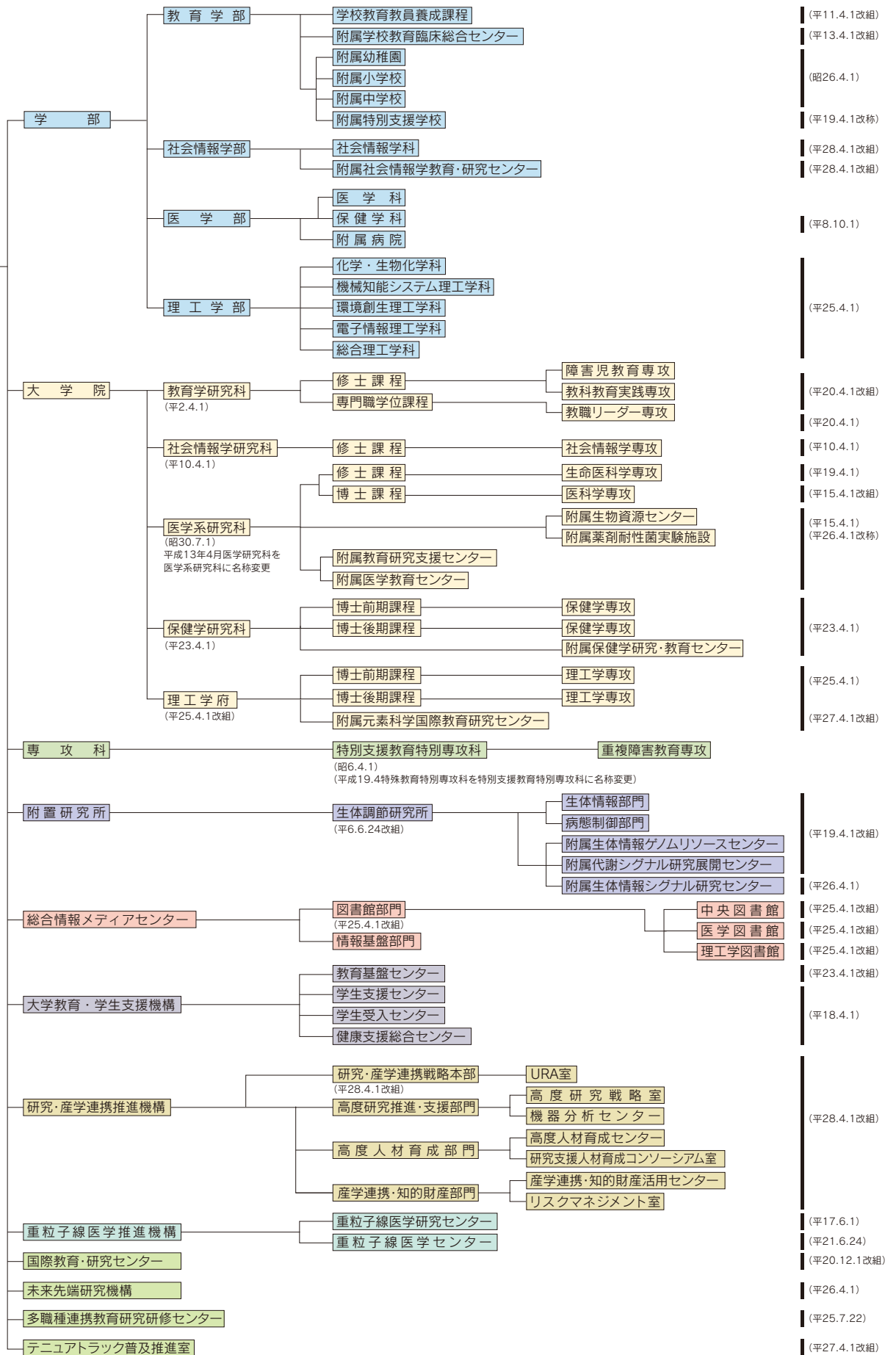


事務組織



教育・研究組織

群馬大学
(昭24.5設置)
平成16.4
国立大学法人化



組織・運営

役員・執行役員・副学長・学長特別補佐・顧問

平成28年5月1日現在

役員	
学長	平塚 浩士
理事（教育・企画・国際交流担当）	窪田 健二
理事（研究担当）	和泉 孝志
理事（総務・財務担当）・事務局長	後藤 宏平
理事（病院担当）・附属病院長	田村 遵一
理事（学長特命担当・非常勤）	本多 悦子
監事	岡野 弘文
監事（非常勤）	森田 均

副学長	
理事（教育・企画・国際交流担当）	窪田 健二
理事（研究担当）	和泉 孝志
理事（総務・財務担当）・事務局長	後藤 宏平
男女共同参画推進室長	工藤 貴子
国際教育・研究センター長	末松 美知子
特別教授（非常勤）	竹内 利行
特別教授（非常勤）	小池 啓一

執行役員	
学長	平塚 浩士
理事（教育・企画・国際交流担当）	窪田 健二
理事（研究担当）	和泉 孝志
理事（総務・財務担当）・事務局長	後藤 宏平
理事（病院担当）・附属病院長	田村 遵一
理事（学長特命担当・非常勤）	本多 悦子
教育学部長	齋藤 周
社会情報学部長	富山 慶典
医学系研究科長	峯岸 敬
保健学研究科長	村上 博和
理工学府長	篠塚 和夫
生体調節研究所長	泉 哲郎
総合情報メディアセンター長	田中 麻里

学長特別補佐	
医学系研究科教授	西山 正彦
教育学部教授	佐野 史
教育学研究科教授	山崎 雄介
社会情報学部准教授	新井 康平
理工学府教授	板橋 英之
理工学府教授	花屋 実
理工学府教授	関 庸一

顧問（非常勤）	
元群馬県商工会議所連合会名誉会長	金子 才十郎
元群馬大学長（第9代）	赤岩 英夫
元群馬大学長（第10代）	鈴木 守
前群馬大学長（第11代）	高田 邦昭

学長選考会議・経営協議会・教育研究評議会

平成28年5月1日現在

学長選考会議		
経営協議会	高橋 康三	株式会社上毛新聞社相談役
経営協議会	加藤 則子	十文字学園女子大学教授
経営協議会	曾我 孝之	前橋商工会議所会頭
経営協議会	中村 秀一	一般社団法人医療介護福祉政策研究フォーラム理事長
評議員	峯岸 敬	医学系研究科長
評議員	篠塚 和夫	理工学府長
評議員	齋藤 周	教育学部長
評議員	村上 博和	保健学研究科長
理事	窪田 健二	理事（教育・企画・国際交流担当）
理事	和泉 孝志	理事（研究担当）
理事	後藤 宏平	理事（総務・財務担当）・事務局長
理事	田村 遵一	理事（病院担当）・附属病院長

教育研究評議会		
1. 議長	平塚 浩士	学長
2. 評議員	窪田 健二	理事（教育・企画・国際交流担当）
	和泉 孝志	理事（研究担当）
	後藤 宏平	理事（総務・財務担当）・事務局長
	田村 遵一	理事（病院担当）・附属病院長
	本多 悦子	理事（学長特命担当）
	齋藤 周	教育学部長
	富山 慶典	社会情報学部長
	峯岸 敬	医学系研究科長
	村上 博和	保健学研究科長
	篠塚 和夫	理工学府長
	泉 哲郎	生体調節研究所長
	田中 麻里	総合情報メディアセンター長
	益田 裕充	教育学部教授
	森谷 健	社会情報学部教授
	小湊 慶彦	医学系研究科教授
	横山 知行	保健学研究科教授
	花泉 修	理工学府教授
	佐藤 健	生体調節研究所教授

経営協議会		
1. 議長	平塚 浩士	学長
2. 学外委員	加藤 則子	十文字学園女子大学教授
	齋藤 一雄	株式会社群馬銀行代表取締役頭取
	曾我 孝之	前橋商工会議所会頭
	反町 敦	群馬県副知事
	高橋 康三	株式会社上毛新聞社相談役
	中村 秀一	一般社団法人医療介護福祉政策研究フォーラム理事長
3. 学内委員	窪田 健二	理事（教育・企画・国際交流担当）
	和泉 孝志	理事（研究担当）
	後藤 宏平	理事（総務・財務担当）・事務局長
	田村 遵一	理事（病院担当）・附属病院長

監査室長	廣瀬 衛 助
法務・コンプライアンス室長	廣瀬 衛 助
事務局	
事務局長・副学長	後藤 宏 平
総務部長	松谷 治
総務課長	亀原 正 美
人事労務課長	青木 敦 弘
企画評価課長	大川 雄 司
財務部長	松元 淳 一
財務課長	吉井 博 幸
経理課長	町田 敦 志
学務部長	道見 明 彦
教務課長	武内 由 美
学生支援課長	青木 あずさ
学生受入課長	高橋 徳 一
国際交流課長	中田 多 美
研究推進部長	石川 幸 秀
研究推進課長	中野 道 明
産学連携推進課長	早川 知 宏
総合情報メディアセンター課長	田中正 実
施設運営部長	藤村 達 雄
施設企画課長	村居 治 彦
施設整備課長	中村 貴 行
総合情報メディアセンター	
センター長（図書館長）	田中 麻 里
大学教育・学生支援機構	
機構長	窪田 健 二
副機構長	尾崎 広 明
教育基盤センター長	窪田 健 二
学生支援センター長	窪田 健 二
学生受入センター長	窪田 健 二
健康支援総合センター長	田村 遵 一
研究・産学連携推進機構	
研究・産学連携推進機構長	和泉 孝 志
副機構長	板橋 英 之
研究・産学連携戦略本部長	和泉 孝 志
副本部長	板橋 英 之
URA室長	和泉 孝 志
URA副室長	早川 知 宏
高度研究推進・支援部門長	花屋 実
高度研究戦略室長	花屋 実
機器分析センター長	若松 馨
高度人材育成部門長	石間 経 章
高度人材育成センター長	粕谷 健 一
研究支援人材育成コンソーシアム室長	伊藤 正 実
産学連携・知的財産部門長	花泉 修
産学連携・知的財産部門副部門長	伊藤 正 実
産学連携・知的財産活用センター長	佐藤 和 浩
リスクマネジメント室長	西村 淑 子

重粒子線医学推進機構	
機構長	和泉 孝 志
重粒子線医学研究センター長	中野 隆 史
重粒子線医学センター長	田村 遵 一
国際教育・研究センター	
センター長	末松 美知子
未来先端研究機構	
最高責任者	平塚 浩 士
統括責任者	和泉 孝 志
教育学部	
学部長	齋藤 周
事務長	加藤 真 一
附属学校教育臨床総合センター長	上原 景 子
附属幼稚園長	林 耕 史
附属小学校長	上條 隆
附属中学校長	西園 大 実
附属特別支援学校長	藤本 宗 利
社会情報学部	
学部長	富山 慶 典
事務長	坂本 和 秀
医学部	
学部長	峯岸 敬
大学院医学系研究科	
研究科長	峯岸 敬
附属薬剤耐性菌実験施設長	富田 治 芳
大学院保健学研究科	
研究科長	村上 博 和
医学部附属病院	
病院長	田村 遵 一
昭和地区事務局	
事務部長	宮田 幸 宏
次長	福田 美 則
総務課長	今泉 一 宏
学務課長	大澤 和 美
経営企画課長	多田 典 史
管理運営課長	穴戸 文 雄
医事課長	星野 幸 久
大学院理工学部	
学府長	篠塚 和 夫
理工学部	
学部長	篠塚 和 夫
事務長	石田 滋 夫
生体調節研究所	
所長	泉 哲 郎
附属生体情報ゲノムリソースセンター長	平井 宏 和
附属代謝シグナル研究展開センター長	北村 忠 弘
附属生体情報シグナル研究センター長	泉 哲 郎

教育学部

(荒牧地区)

教育学部は、新しい時代の学校教育を担う教員、中でも小学校・中学校・特別支援学校の教員を養成することを主な目的としている。学校教育に対する多様な要求に対し、柔軟かつ効果的にこたえられる高度な専門的知識・技術と豊かな人間性を身に付けた実践的指導力のある教育者の養成を目指している。

教育学部

課 程	入学定員	系	専 攻	講 座
学校教育教員養成課程	220	文化・社会	国語、社会、英語	国語教育、社会科教育、英語教育
		自然・情報	数学、理科、技術	数学教育、理科教育、技術教育
		芸術・表現	音楽、美術	音楽教育、美術教育
		生活・健康	家政、保健体育	家政教育、保健体育
		教育人間科学	教育、教育心理、障害児教育	学校教育、障害児教育

教育学研究科（修士課程）

専 攻	入学定員	専修・コース	領 域
障 害 児 教 育 専 攻	3	障害児教育専修	
教 科 教 育 実 践 専 攻	20	文化・社会コース 自然・情報コース 芸術・表現コース 生活・体育コース	国語、社会、英語 数学、理科、技術 音楽、美術 家政、保健体育
計	23		

教育学研究科（専門職学位課程）

専 攻	入学定員	コ ー ス
教 職 リ ー ダ ー 専 攻	16	児童生徒支援、学校運営

特別支援教育特別専攻科

専攻	入学定員	コース
重複障害教育専攻	15	一種免許状取得、専修免許状取得

附属研究施設

名称	内容等
学校教育臨床総合センター	センターでは3つの部門で、実践的教育研究を進めている。教育実習・実践開発部門では、教育実習の改善研究や、授業方法・教育内容の開発研究を行っている。また、教育を工学的に考えるという立場から教育実践の改善に取り組んでいる。国際理解教育部門では、生まれ育った文化や社会が異なる子どもが混在する学校が直面している様々な問題との接点を求め、検証を行っている。教育臨床心理部門では、心理療法の実践と教育現場から現れる心身問題へ対応するためのケア・ネットワーク作りを行っている。

教育学部附属学校

幼児及び児童・生徒に対し、幼児教育、義務教育として行われる普通教育及びそれに準ずる教育等を施すとともに、それぞれに関する実践的研究や先導的研究を学部と協力して推進し地域の教育の充実・発展に寄与することや、教育学部学生の教育実習を実施することを目的としている。

平成28年5月1日現在

区分	総定員	現員								
		1年生/ 3歳児	2年生/ 4歳児	3年生/ 5歳児	4年生	5年生	6年生	計		
教育学部	附属幼稚園	140	28	55	54	/	/	/	137	
	附属小学校	645	102	102	101	101	102	111	619	
	附属中学校	460	136	159	157	/	/	/	452	
	附属特別支援学校	小学部	18	3	3	3	3	3	3	18
		中学部	18	6	6	6	/	/	/	18
		高等部	24	4	7	5	/	/	/	16
計	1,305	279	332	326	104	105	114	1,260		



授業風景



教育実習



体育大会（附属中学校）

社会情報学部 (荒牧地区)

高度情報社会の到来は、仕事や勉強の仕方から、政治・経済のあり方、消費・レジャー行動に至るまで、社会のあらゆる分野に大きな変化を引き起こしている。この変化を多角的・総合的に把握し、そこに発生する各種の問題を解決するためには、細分化されている既存の学問では対応しきれない。本学部では、情報科学、人文科学、社会科学、環境科学といったさまざまな分野の専門家が互いの研究成果を融合させることで、高度情報社会の諸問題の解決策を探究している。

社会情報学部

学 科	入学定員	3年次編入学定員	専門科目	特別選抜（入学後）
社会情報学科	100	20 (平成30年度から)	コア科目（社会情報学入門科目、メディア科目、コミュニケーション科目、情報科目） リサーチスキル科目（研究方法科目、データ解析科目、情報処理スキル科目） コミュニケーション科目（外国語コミュニケーション科目、表現スキル科目） プロジェクト科目 ディレクション科目（メディアと文化、公務と法律、経済と経営）	データ解析プログラム（10名） 教育・社情GFLコース（10名）

GFL：グローバルフロンティアリーダー

学 科	入学定員	3年次編入学定員	専門科目
情報行動学科	—	10 (平成29年度まで)	情報メディアコース 情報システムコース
情報社会科学科	—	10 (平成29年度まで)	社会・政治科目群、法律科目群、経済科目群、経営科目群、環境科学科目群

社会情報学研究科（修士課程）

専 攻	教育・研究領域（小区分）			入学定員
社会情報学専攻	社会情報基盤領域	経済・経営領域	経済・産業	14
			経営・環境	
		地域・行政領域	地域・コミュニティ	
			行政・法律	
文化・コミュニケーション領域	文化・歴史 コミュニケーション			

社会情報学教育・研究センター

設立趣旨・目的	主な活動内容
当センターは高度情報社会が内包する諸課題の解決を実現するため、社会情報学的研究領域の研究拠点として、社会情報学研究センターの名称で平成20年10月1日に発足した。そして、平成28年4月1日に、社会情報学の研究推進や教育の質的転換の推進とともに、それら成果を社会貢献に結びつけることを目的として、研究部門・教育部門・社会貢献部門の三部門制の社会情報学教育・研究センターとなった。	研究部門は、研究プロジェクトの企画及び推進支援に関することや研究論集の電子発行、シンポジウム、講演会等の開催に関することなどを業務としている。 教育部門は、社会情報学教育に関する研究及び普及に関することや新しい教育方法の研究及び普及に関することなどを業務としている。 社会貢献部門は、学部・大学院の教育・研究の成果に基づく社会貢献の推進に関することを業務としている。



授業風景



地域貢献シンポジウム



学生が制作・編集した「学部紹介パンフレット」

医学部

(昭和地区)

医学科では、人体、生命の神秘を追求し、疾病の本態を解明し、それを克服するための方策を探究するとともに、優れた医師、真摯な医学研究者を養成することを目的としている。ここでの教育目標は、学生が将来、医師又は研究者となるために、医学の基本的知識を理解し、医療及び医学研究に必要な基本的技術を修得し、さらに医師として患者に接する真摯な態度と生涯にわたる自己学習の習慣を体得することにある。

保健学科においては、人間として、保健医療の専門職として、確固たる倫理観と豊かな人間性を持ち、その社会的使命を果たすことのできる人材の育成を図るとともに、総合的で先進的な教育・研究を展開することを目的とする。

医学部

学 科	入学定員	学 科 目
医 学 科	108 [15]	医倫理学 生命医学 応用医学 卒前臨床実習（クリニカル・クラークシップ） 実践臨床病態学

学 科	専 攻	入学定員	学 科 目
保 健 学 科	看 護 学 専 攻	80	基礎看護学、臨床看護学、母子看護学、地域看護学
	検 査 技 術 科 学 専 攻	40	基礎検査学、応用検査学
	理 学 療 法 学 専 攻	20	基礎理学療法学、総合理学療法学
	作 業 療 法 学 専 攻	20	基礎作業療法学、心身障害作業療法学
			医療基礎学
	計	160 (10)	

注：[] 内の数字は2年次編入学定員を表し、外数である。() 内の数字は3年次編入学定員を表し、外数である。

医学系研究科（修士課程）

専 攻	入学定員
修士課程 生命医科学専攻	15



基礎講義棟



学習室（石井ホール）



専攻別説明会（検査）

医学系研究科（博士課程）

専攻		入学定員	講座	専攻分野
博士課程	医科学専攻	57	脳神経病態制御学	脳神経再生医学、病態病理学、脳神経内科学、脳神経外科学、眼科学
			脳神経発達統御学	神経薬理学、遺伝発達行動学、分子細胞生物学、神経精神医学、麻酔神経科学
			高次細胞機能解析学（協力講座）	細胞構造、分泌制御、生体膜機能
			器官代謝制御学	生体構造学、病態制御内科学、泌尿器科学、産科婦人科学、臨床薬理学
			器官機能制御学	生化学、機能形態学、応用生理学、臨床検査医学、整形外科学、臓器病態内科学
			代謝・内分泌学（協力講座）	細胞調節、遺伝生化学、代謝シグナル解析
			生体機能解析学（連携講座）	生体機能解析学
			病態腫瘍制御学	病態腫瘍薬理学、病理診断学、病態総合外科学、腫瘍放射線学、放射線診断核医学、顎口腔科学、臓器病態外科学、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学、肝胆膵外科学、*バイオイメージング情報解析学、*分子画像学、*がん治療臨床開発学講座
			重粒子線医学（協力講座）	重粒子線医学物理・生物学、重粒子線臨床医学
			遺伝情報・発現学（協力講座）	遺伝子情報、ゲノム科学リソース
			生体防御機構学	分子予防医学、細菌学、国際寄生虫病学、法医学生体統御内科学、小児科学、皮膚科学
			社会環境医療学	公衆衛生学、医学哲学・倫理学、総合医療学、救急医学、リハビリテーション医学、情報医療学（協力分野）
生体情報学（協力講座）	シグナル伝達、分子細胞制御			

*印は、寄附講座

保健学研究科（博士課程）

専攻		入学定員	ユニット又は領域
博士前期課程（修士）	保健学専攻	50	基礎保健学ユニット、応用保健学ユニット、地域・国際保健学ユニット
博士後期課程（博士）		10	看護学領域、生体情報検査科学領域、リハビリテーション学領域
計		60	

附属研究施設

名称	内容
医学系研究科附属生物資源センター	実験動物を用いた研究教育の材料や環境を安定的に提供し、医生物学研究の基盤施設として学内に広く貢献している。また、医生物学の研究教育における動物実験倫理、動物福祉の徹底にも努めている。
医学系研究科附属薬剤耐性菌実験施設	本邦で唯一の薬剤耐性菌に関する専門的研究施設である。社会的に大きな問題になっている細菌が薬剤に対して耐性を獲得するしくみを遺伝学的、分子生物学的に研究している。

医学部附属病院

(昭和地区)

診療を通じて医学の教育及び研究の向上を図るものである。

病院には、教育と診療と研究の3つの重要な責務がある。教育については、医学部等の要請による臨床実習及び卒業後の初期教育が主体であり、診療については、保険医療機関として地域医療に貢献するとともに、一般医療機関では行い難い高度医療を提供する医療機関として活動し、研究については、先進医療の開発を中心とした臨床研究を行うことが、それぞれ主体となっている。

附属病院

診療科		中央診療施設	診療支援部門	薬剤部	看護部	医療の質・安全管理部
内科診療センター	循環器内科、呼吸器・アレルギー内科、消化器・肝臓内科、内分泌糖尿病内科、腎臓・リウマチ内科、血液内科、脳神経内科	検査部 手術部 放射線部 輸血部 集中治療部 病理部	MEサプライセンター システム統合センター 臨床試験部 診療情報管理部 栄養管理部			
外科診療センター	循環器外科、呼吸器外科、消化管外科、乳腺・内分泌外科、肝胆膵外科、小児外科	周産母子センター 光学医療診療部 リハビリテーション部 感染制御部 腫瘍センター 重粒子線医学センター 救命・総合医療センター	患者支援センター 肝疾患センター 認知症患者医療センター 医療人能力開発センター トランスレーショナルリサーチセンター 保険診療管理センター			
泌尿器科、歯科口腔・顎顔面外科、整形外科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科、精神科神経科、麻酔科蘇生科、脳神経外科、小児科、産科婦人科、放射線科、核医学科、形成外科						

※平成28年4月1日より形成外科を開設したため、現在の診療科名と平成27年度患者数集計の診療科名は一致しない。

診療科及び患者数

診療科	区分	平成27年度患者数(人)	
		入院患者	外来患者
内科系	循環器内科、呼吸器・アレルギー内科、消化器・肝臓内科、内分泌糖尿病内科、腎臓・リウマチ内科、血液内科、脳神経内科	47,462	118,037
外科系	循環器外科、呼吸器外科、消化管外科、乳腺・内分泌外科、肝胆膵外科、泌尿器科、歯科口腔・顎顔面外科	61,157	112,379
感覚器・運動機能系	整形外科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科	49,692	152,086
脳神経・精神・麻酔系	精神科神経科、麻酔科蘇生科、脳神経外科	25,646	30,909
小児・女性系	小児科、小児外科、産科婦人科	25,967	42,122
放射線系	放射線科、核医学科	7,991	35,574
計		217,915	491,107

※病床数：731床（平成28年5月1日現在）
（診療科名は平成27年度のもの）

理 工 学 部

(桐生地区)

理学に根ざした俯瞰的な物の見方、考え方を身に付け、工学に根ざした実践的・独創的な課題解決能力を養う理工学教育を行い、個人の発想や知的好奇心を尊重し、未知の分野に挑戦する活力と創造性を育むとともに、国際コミュニケーション能力を備え、世界を舞台に研究者・技術者として活躍できる人材を育成することを目的としている。

理工学部

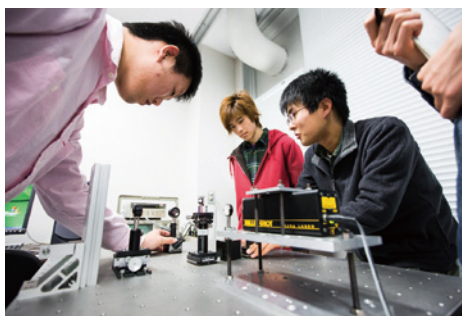
学 科	入学定員	分 野
化 学 ・ 生 物 化 学 科	160	基礎理学系分野、化学・生物学統合分野、物質科学分野、生物科学分野、計測科学分野
機 械 知 能 シ ス テ ム 理 工 学 科	110	基礎理学系分野、機械知能システム理工学統合分野、エネルギーシステム分野、マテリアルシステム分野、メカトロニクス分野、インテリジェントシステム分野
環 境 創 生 理 工 学 科	90	基礎理学系分野、環境創生理工学統合分野、社会基盤工学分野、化学工学分野、環境科学分野
電 子 情 報 理 工 学 科	120	基礎理学系分野、電子情報理工学統合分野、電子デバイス分野、電気工学分野、情報処理・通信分野、計算機科学分野
総 合 理 工 学 科 ※	30	基礎理学系分野、化学・生物学統合分野、機械知能システム理工学統合分野、環境創生理工学統合分野、電子情報理工学統合分野
計	510(30)	

※夜間主コース（フレックス制）

注：（ ）内の数字は3年次編入学定員を表し、外数である。3年次編入学の定員は学科共通である。



キャンパス内風景



授業風景（電気電子工学実験）



授業風景（機械製図）

理工学府（博士課程）

専攻	専攻	入学定員	分野又は領域
博士前期課程 (修士)	理 工 学 専 攻	300	<p>物質・生命理工学教育プログラム</p> <p>物質・生命理工学統合分野、物質科学分野、生物科学分野、計測科学分野</p> <p>知能機械創製理工学教育プログラム</p> <p>知能機械創製理工学統合分野、エネルギーシステム分野、マテリアルシステム分野、メカトロニクス分野、インテリジェントシステム分野</p> <p>環境創生理工学教育プログラム</p> <p>環境創生理工学統合分野、社会基盤工学分野、流域マネジメント工学分野、災害社会工学分野、エネルギー創生分野、環境システム制御分野、バイオプロセス開発分野、環境材料創製分野</p> <p>※日清紡アドバンストカーボン工学講座</p> <p>電子情報・数理教育プログラム</p> <p>電子情報理工学統合分野、電子デバイスシステム分野、計測・制御・エネルギー分野、情報通信システム分野</p>
博士後期課程 (博士)	理 工 学 専 攻	39	<p>物質・生命理工学領域</p> <p>知能機械創製理工学領域</p> <p>環境創生理工学領域</p> <p>※日清紡アドバンストカーボン工学講座</p> <p>電子情報・数理領域</p>
計		339	※印は寄附講座

生体調節研究所 (昭和地区)

本研究所では、インスリンの分泌や作用の機構、膵臓インスリン分泌細胞の分化・再生、糖尿病・肥満症など生活習慣病の成因・病態生理の解明など、糖尿病関連の研究が盛んである。また、内分泌・代謝疾患の成因・病態の基盤となる、細胞内膜輸送、細胞間・細胞内シグナル伝達、エネルギー代謝・摂食調節、ストレス・炎症応答、エピゲノム制御といった、基礎的な研究分野でも大きな成果を上げている。これらの研究によって、生体調節の異常に基づく疾患の発症予防・病態制御に寄与したいと考えている。

研究部門

研究部門	分野
生体情報部門	遺伝子情報、細胞構造
病態制御部門	細胞調節、遺伝生化学、分子細胞制御、分子糖代謝制御、脳病態制御

附属研究施設

附属研究施設	分野
生体情報ゲノムリソースセンター	ゲノム科学リソース、疾患ゲノム研究
代謝シグナル研究展開センター	代謝シグナル解析、トランスレーショナルリサーチ
生体情報シグナル研究センター	分泌制御、生体膜機能



生体調節研究所



生体情報ゲノムリソースセンター



代謝シグナル研究展開センター

総合情報メディアセンター

総合情報メディアセンターは、本学の教育研究支援を目的とした、学術情報の収集と情報発信ならびに基盤の整備運用等のサービスを行う部局である。資料の整備、ネットワーク及び演習用端末の管理、電子ジャーナルの契約だけでなく、学生のための「学びの場」の提供に力を入れている。また、地域の学術情報センターとして、学外者利用などの地域貢献も行っている。加えて、情報化統括責任者(CIO)の下に組織された「情報化推進室」と緊密に連携し、本学の情報化と情報セキュリティ体制の強化を一元的に推進している。

図書館部門

図書館部門は、中央図書館(荒牧地区)、医学図書館(昭和地区)及び理工学図書館(桐生地区)で構成されている。

3館が連携・協力しながら、本学の学生・教職員及び学外利用者へのサービスを行っており、電子的資料の積極的収集や「群馬県地域共同リポジトリ(AKAGI)」の構築など電子図書館としての機能強化及び地域貢献に努めている。

蔵書数(平成28年5月1日現在) (単位:冊)

区分	中央図書館	医学図書館	理工学図書館	計
和書	277,509	68,564	84,965	431,038
洋書	56,516	59,337	69,140	184,993
計	334,025	127,901	154,105	616,031



中央図書館(荒牧地区)

情報基盤部門・事務情報部門

情報基盤部門は群馬大学学術情報ネットワーク(GUNet)、教育研究用計算機システムの管理運用を行っている。

GUNetは荒牧・昭和・桐生地区を10Gbps、太田地区と附属学校園を100Mbpsで接続し、本学災害対策データセンターから10Gbpsでインターネットへ接続されている。

教育研究用計算機システムでは、授業、演習等に利用される教育用端末の整備をするとともに、全学認証アカウントによる学内認証基盤を構築し、学内サービスの認証一元化を推進している。

事務情報部門は、事務情報ネットワーク、図書館情報システム、事務用電子計算機システムの管理運用を行っている。情報基盤部門と連携し、事務の効率化・情報化を推進している。

■全学ソフトウェアライセンス(ソフトウェアの無償配布)

学生、教職員が全学的に使用するソフトウェアの標準化と、その整備に係る経費の節減、並びに、ソフトウェアの不正コピーの防止を組織的に取り組むことでのコンプライアンス対策等を目的として、マイクロソフト社との間で「マイクロソフト包括ライセンス契約」を締結している。当該契約により本学の教職員及び学生は、個人のパソコンにも無償でWindowsやOfficeの最新バージョンを利用することができる。

■無線LANシステム

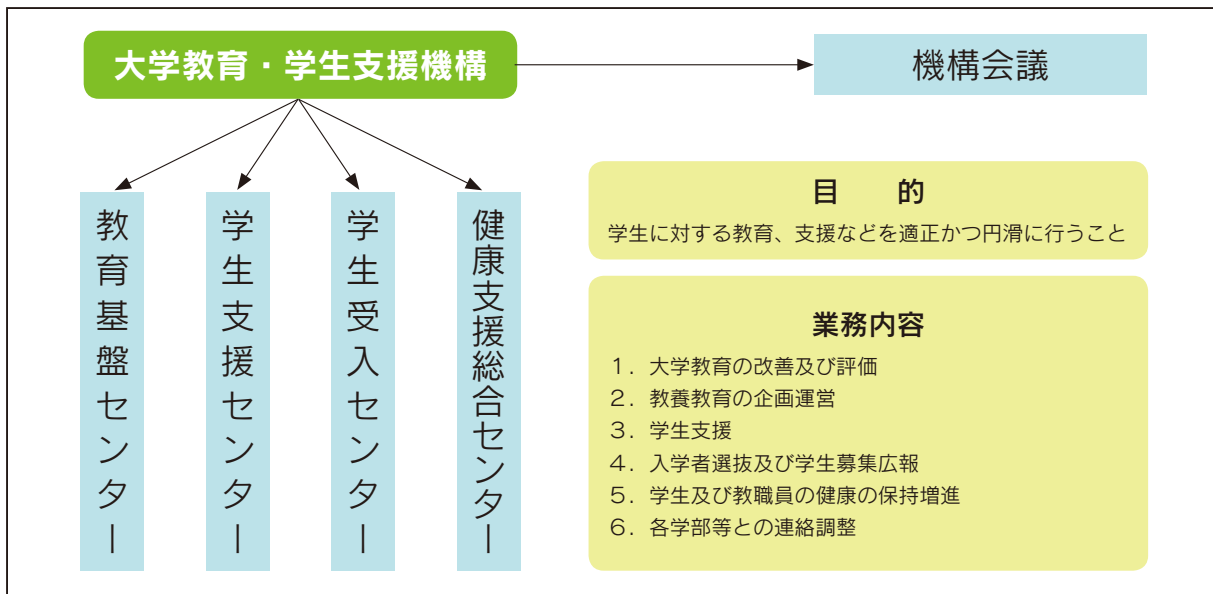
荒牧地区、昭和地区及び桐生・太田地区の建物で無線LAN接続環境を提供している。昭和地区では、ほぼ全域で利用でき、荒牧・桐生・太田地区では、主な利用可能な場所に右のステッカーを提示している。



※総合情報メディアセンターでは、上記に加え様々なサービスを提供している。サービスの詳細については、ホームページを参照。

大学教育・学生支援機構

大学教育・学生支援機構は、教育基盤センター、学生支援センター、学生受入センター及び健康支援総合センターからなる。



教育基盤センター

目的

全学に共通する大学教育の基盤を整備するとともに、教養教育を円滑に運営すること

業務内容

1. 全学共通の教育基盤の整備
2. 大学教育の教育内容及び教育方法の改善
3. 教養教育の企画及び運営
4. 大学教育の評価
5. その他
 - ① 高大連携、大学間連携等の企画
 - ② 各種教育プロジェクト(GP)の立案

学生支援センター

目的

学生の生活及び就職活動に対する支援並びに修学に係る相談等を適切かつ円滑に行うこと

業務内容

1. 学生生活の支援
2. 学生相談の企画、立案及び実施
3. 学生の就職指導の企画、立案及び実施
4. 障害学生の修学支援

学生受入センター

目的

学生募集に係る広報の推進並びに入学者選抜の改善に係る調査及び研究並びに入学者選抜に係る情報の適正な管理を行うこと

業務内容

1. 学生募集に係る広報活動
2. 入学者選抜方法の改善
3. 入学者選抜に係る調査及び研究
4. 入学者選抜に係る情報の保護、管理及び開示
5. 入学者選抜に係るリスクマネジメント
6. 大学入試センター試験

健康支援総合センター

目的

学生及び教職員の心身の健康の保持増進を図ること

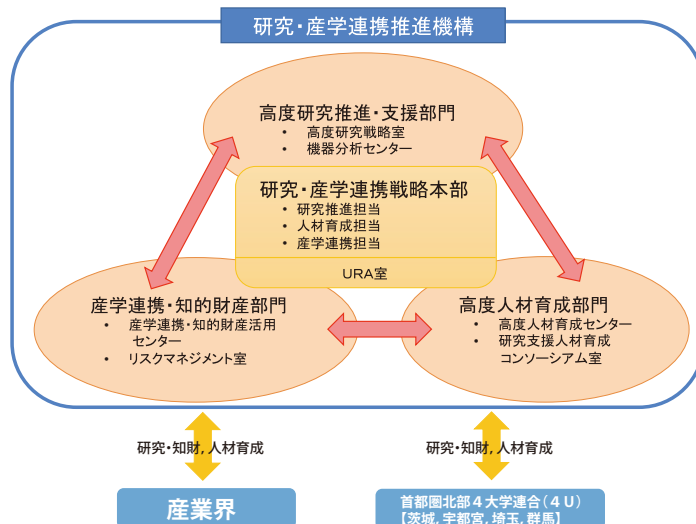
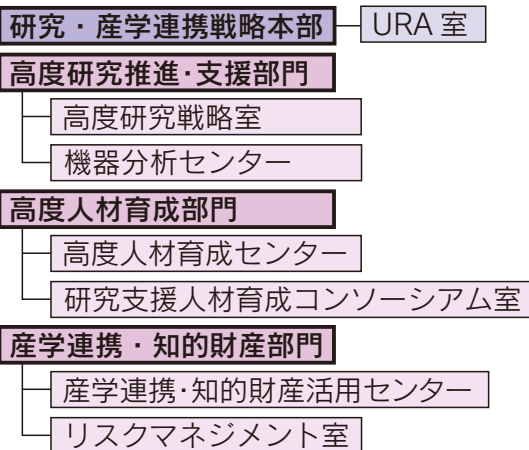
業務内容

1. 健康診断の企画、立案及び実施
2. 健康診断の事後処理等に係る指導助言
3. 身体的及び精神的な健康相談
4. 応急処置
5. 健康に係る調査及び研究
6. 感染症の予防及び環境衛生に係る指導助言

研究・産学連携推進機構

本機構は、研究・産学連携戦略本部、高度研究推進・支援部門、高度人材育成部門、産学連携・知的財産部門から組織されており、大学の基本理念に基づき、優れた研究成果を生み出すための体制を強化し、知的財産の管理・運用等を円滑に行い、もって本学における学術研究の一層の高度化とその成果を広く社会に還元することを目的としている。

研究・産学連携推進機構



◆研究・産学連携戦略本部

高度教育研究及び産学連携に必要な戦略を策定し、研究企画立案、研究資金の調達・管理、知的財産の活用等を総合的にマネジメントし、本学の研究力を顕在化することによって、本学が世界水準の研究大学としての発展に寄与すること。

◇URA室

- (1) 研究活動等の調査・分析
- (2) 科学技術・学術政策等の動向把握等
- (3) 競争的資金等に係る情報収集・分析及び申請支援
- (4) プロジェクト研究推進の支援
- (5) 産学官連携推進の支援

◆高度研究推進・支援部門

学術研究に必要な研究戦略を策定し、先端研究及びプロジェクト型研究を推進し、研究成果を地域社会に広く還元すること、及び各種分析機器を集中管理し、学内外の者の共同利用に供するとともに、産学官連携の推進を図り本学の教育と研究開発の進展に寄与すること。

◇高度研究戦略室

- (1) 研究戦略の策定
- (2) 先端研究の推進
- (3) プロジェクト型研究（国際共同研究プロジェクトを含む）の推進
- (4) 競争的研究資金獲得のための企画立案
- (5) プロジェクトに係る研究設備マスタープランの策定

◇機器分析センター

- (1) 機器の管理運用
- (2) 利用者に対する講習及び技術指導
- (3) 機器による分析、測定及び解析
- (4) 分析技術の研究開発、情報収集及び情報提供
- (5) 外部依頼分析、技術相談、共同研究
- (6) 共同利用に係る研究設備マスタープランの策定

◆高度人材育成部門

ポストドクター及び博士課程学生のキャリア開発支援、起業家精神に富んだ人材養成を通じた実践的な高度人材を育成並びに我が国の研究大学に必要な研究支援人材を育成すること。

◇高度人材育成センター

- (1) ポストドクター及び博士課程学生の実践的能力の開発
- (2) ポストドクターのインターンシップの実施
- (3) ポストドクター及び博士課程学生と企業等との交流及び連携
- (4) 教職員のキャリアパスに係る意識啓発
- (5) ポストドクター及び博士課程学生のキャリア開発プログラムの構築
- (6) 創業者及び創業支援人材の育成

◇研究支援人材育成コンソーシアム室

- (1) コンソーシアムの事務局
- (2) コンソーシアム事業の実施

◆産学連携・知的財産部門

民間企業等との共同研究等の推進並びに知的財産の創出、取得、管理及び戦略的な活用、大学発ベンチャー企業の創出及び支援を通じて、産学官連携を積極的に推進し、本学の研究成果を社会に還元するとともに、研究・産学連携活動に係るリスクの発生防止等を図ること。

◇産学連携・知的財産活用センター

- (1) 民間機関等との共同研究及び受託研究
- (2) 知的財産の創出、取得、管理及び技術移転
- (3) 知的財産情報の発信
- (4) 大学発ベンチャー企業の創出及び支援
- (5) 首都圏北部地域における知的財産の技術移転支援
- (6) 地域社会における学術研究の交流

◇リスクマネジメント室

- (1) 利益相反に係る適切な管理
- (2) 外国為替及び外国貿易法に基づく輸出管理に係る適切な管理
- (3) 学内外の関係する機関等との連絡調整
- (4) 教職員等に対する啓発活動

重粒子線医学推進機構

重粒子線医学研究センター

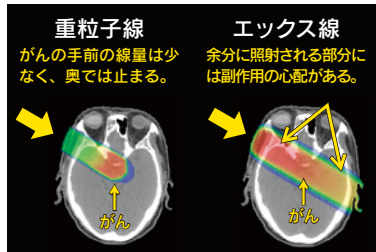
重粒子線加速器を導入し、基礎／臨床放射線医学研究ならびに重粒子線治療技術の高度化研究開発を推進するとともに、この分野を担う臨床腫瘍医、医学物理士、放射線生物学者等の養成を行うことを目的としている。

重粒子線医学センター

重粒子線がん治療の臨床試験を推進するとともに、重粒子線治療を中心としたがん診療の実践により、地域医療に貢献することを目的としている。



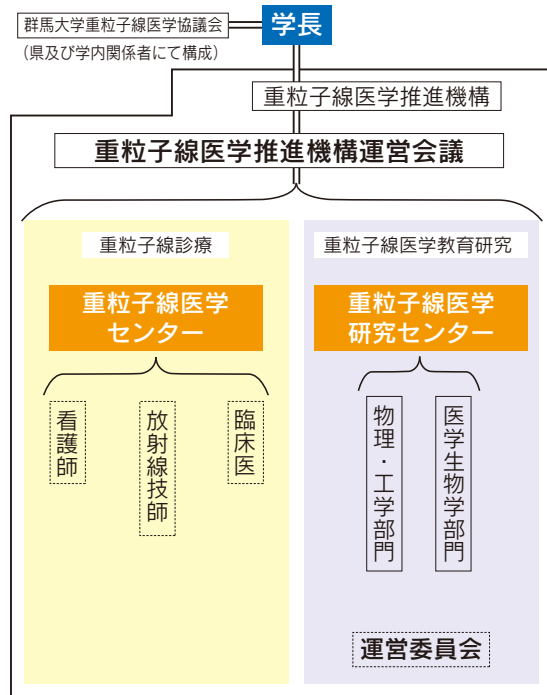
重粒子線照射施設外観



線量分布の比較（重粒子線とX線）

重粒子線医学にかかる研究、教育、診療活動を適正かつ円滑に推進することを目的としている。

重粒子線医療実行組織



大学・大学院等



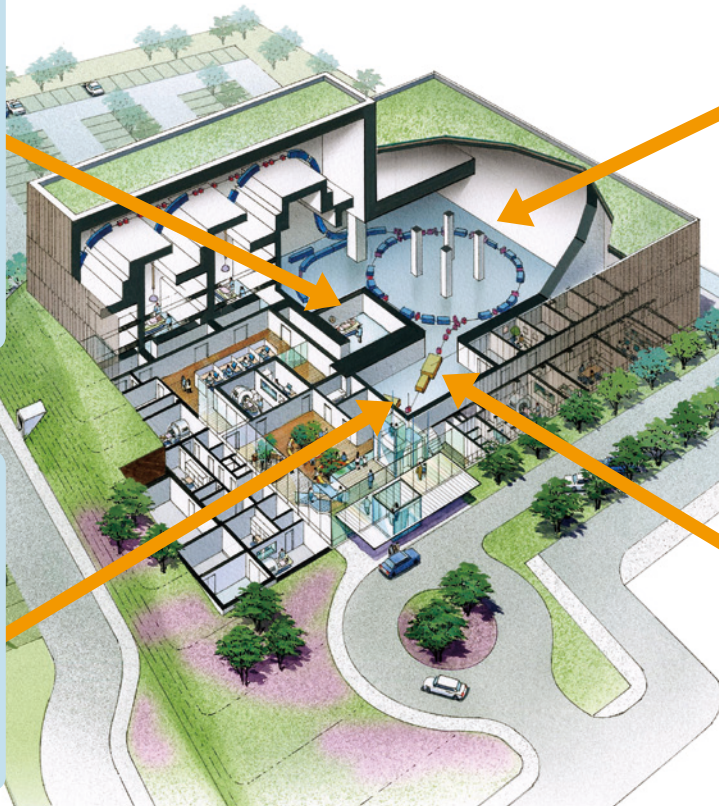
治療室

加速された炭素イオンはここで患者さんに照射される。重粒子線照射中に痛みは感じない。



イオン源装置

ここで化学物質の中の炭素原子から炭素イオンが作られる。



シンクロトロン加速器

線形加速器から送られた炭素イオンはシンクロトロンの中を周回している間に光速の70%まで加速される。



線形加速器

炭素イオンを主加速器であるシンクロトロンに送り込む前に予備的な加速を行う。

本重粒子線照射施設は、縦横約45m×65m、高さ約20mの建築物で、その中に、重粒子（炭素イオン）を最高で光の70%程度の速度まで加速する直径約20mのシンクロトロン加速器と3治療室ならびに付帯設備を持つ。この治療装置は、重粒子線治療の普及を目指して小型化された最新の装置であり、国際的な注目を集めている。

本学では、群馬県との共同事業として、平成18年度にこの施設の建設に着手し、平成22年3月に治療を開始した。設置後の運営においては、県内医療機関と連携して、施設を効果的に活用し、群馬医療圏に高度な統合がん医療体制を構築し、重粒子線照射施設を全国の諸地域に配置する場合の施設活用のモデルとなることを目指している。

平成28年4月から、重粒子線治療は一部の疾患（切除非適応の骨軟部腫瘍（骨や筋肉、血管、皮下組織などの軟部に発生する腫瘍））が保険適用となった。

学内共同教育研究施設等

国際教育・研究センター

施設等の名称	内 容 等
国際教育・研究センター	教育・研究両面での国際交流と留学生交流等を推進するため、国際交流協定の締結、国際交流に関するプロジェクトの推進をはじめ、外国人留学生のための日本語等の教育プログラムの実施、修学・生活に関する指導や相談を行っている。また、学生の海外派遣等に関する助言及び支援、日本語・日本事情教育等関係領域の調査・研究を行うことを目的としている。



日本伝統文化実践
「邦楽器演習」



学内海外留学フェア
ブースの様子

未来先端研究機構

施設等の名称	内 容 等
未来先端研究機構	未来先端研究機構は、群馬大学が強みを持つ統合腫瘍学（重粒子線によるがんの治療開発等）や内分泌代謝・シグナル学（生活習慣病の病態解明等）などの研究分野において世界水準の研究力を強化することを目的とし、先端的な研究組織として平成26年4月に設置された。 この機構は、グローバル化に対応するため、年俸制を導入するとともに、海外トップクラスの研究者を招へいして海外研究機関の海外ラボラトリーを設置し、国際共同研究を実施している。



若手研究者の研究活動の様子



外国人研究者の
研究活動の様子

共同研究拠点等

拠点等の名称（主たる担当部署等）	内 容 等
内分泌・代謝学共同研究拠点 （生体調節研究所）	内分泌・代謝学および関連領域において、臨床医学研究者を含む研究者コミュニティから要請された共同研究を、研究材料や解析技術の供与によって推進する。そして、その成果発表、研究交流を通じて、当該領域における研究者の育成に寄与する。
アドバンストカーボン構造・ 機能相関解析研究拠点 （理工学府） （機器分析センター）	「低炭素社会構築に向けた研究基盤ネットワーク整備」事業 群馬大学のカーボン材料研究グループが有する、①カーボン材料に関する研究開発とその技術的蓄積、②機能性ナノ材料であるナノシエルの開発力、③カーボン材料の構造及び機能を解析する研究力、以上、3つの特徴をフルに活用することにより、サテライト拠点としてハブ拠点と連携して低炭素社会の構築を目指す。

主な教育研究補助金採択状況

事業名	名称	主たる担当部署等	採択年度	内容
テニュアトラック普及・定着事業 (若手研究者の自立的 研究環境整備促進)	若手先端科学研究者の研究 環境改革	医学系研究科 理工学府	平成22年度 ～28年度	最先端の科学研究を自立的に遂行できる若手研究指導者を育成する。国際公募によって採用したテニュアトラック教員に、研究費と研究スペースを支援するなどし、任期終了後の高いテニュア獲得率を実現する。さらに、テニュアトラック制度の全学への拡大を目指す。
テニュアトラック 普及・定着事業		医学系研究科 理工学府	平成24年度 ～28年度	モデル事業により構築した体制と実績を活かしてテニュアトラック制による全学的人事制度の改革を推し進める。
		教育学部	平成26年度 ～30年度	
博士課程教育リーディングプログラム	重粒子線工学グローバル リーダー養成プログラム	医学系研究科	平成23年度 ～29年度	重粒子線医学・生物学の基礎と重粒子線先端臨床研究並びに高度医療機器の開発・運用技術の両面を教育する医学・工学融合型のリーディングプログラム重粒子線医工連携コースを創設し、重粒子線治療をけん引する優れたリーダーの養成を目指す。
がんプロフェッショナル 養成基盤推進プラン	国際協力型 がん臨床指導 者養成拠点	医学系研究科	平成24年度 ～28年度	我が国の死因第一位の疾患であり、国民の生命及び健康にとって重大な問題となっているがんの手術療法、放射線療法、化学療法その他のがん医療に携わるがん専門医療人を養成する。
基礎・臨床を両輪とした 医学教育改革による グローバルな医師養成	卒前・卒後一貫MD-PhD コース	医学系研究科	平成24年度 ～28年度	卒前・卒後一貫性のある基礎医学教育・研究医の養成システムを構築し、基礎医学教育・研究医、及び法医解剖医などの人材養成を図る。
未来医療研究人材養成 拠点形成事業	地域オープンイノベーション R&D人材養成 ～医療開発研究のスタート からゴールまでを一貫する 産官学連携教育・研究プログラム～	医学系研究科	平成25年度 ～29年度	医療イノベーションにおける高度専門研究者及びR&Dマネジメント等の研究支援の専門的人材の養成を推進し、高度化・複雑化した現代医療におけるニーズに対応した医療の開発とこれに伴う医療産業経済の成長の促進に資するため、医学系研究科に特別コース「医療開発医科学コース」を新設するとともに学部での導入教育も開始し、地域に根差した医療イノベーションを促進・実践・展開・推進するための人材養成・教育事業を推進する。
課題解決型高度医療 人材養成プログラム	群馬一丸で育てる地域完結 型看護リーダー	保健学研究科	平成26年度 ～30年度	地域での暮らしや看取りまでを見据えた看護が提供できる人材養成を推進し、わが国が抱える医療現場の諸課題に対して、科学的根拠に基づいた医療が提供でき、健康長寿社会の実現に寄与できる優れた医療人材養成に資するため、本学の取り組み事業により、特色ある教育プログラム・コースを構築し、全国に普及させ、これからの時代に応じた医療人材の養成を推進する。

平成27年度地域貢献事業一覧

担当学部等	学科等名	担当者	事業名
全学部等	地域連携推進室 他	和泉 孝志 理事 武田 茂樹 教授	こども体験教室「群馬ちびっこ大学」
社会情報学部 未来先端研究機構		平田 知久 講師 和泉 孝志 理事	地域貢献シンポジウム「誰のための/何のためのビッグデータなのか?-地域における医療・社会保障・産業・行政の未来とその課題-」
保健学研究科	保健学研究・教育センター地域保健推進室	佐藤 由美 教授	地域貢献シンポジウム「住民と行政とともに創る健康なまちづくり～保健サポーターのチカラを地域に！～」
各学部等	地域連携推進室 他	和泉 孝志 理事 各実施責任教員	公開講座
教育学部 (群馬大学と群馬県教育委員会との連携に関わる協議会) 理工学府	理科教育講座 数学教育講座	日置 英彰 教授 小野 智信 准教授	科学の甲子園群馬県大会の開催
教育学部	音楽教育講座	西田 直嗣 准教授	“薔薇の歌 プロジェクト2015” — 群馬の詩人 大手拓次を歌う —
社会情報学部	情報行動学科 情報社会科学科	西村 淑子 教授 藤井 正希 准教授	ハンセン病療養所栗生楽泉園スタディーツアー及びガイドブック・DVD作成事業
医学部附属病院 理工学府	救急部・集中治療部 先端科学研究指導者育成ユニット	齋藤 繁 教授 井上 雅博 講師	熟年者屋外活動支援と最新 First Aid 研修事業
医学系研究科	神経精神医学分野	福田 正人 教授	ユースメンタルヘルス向上のために県内ネットワークの構築
保健学研究科	保健学研究・教育センター地域保健推進室	佐藤 由美 教授 牛久保 美津子 教授 上山 真美 講師 横山 知行 教授 山口 晴保 教授 他	学生保健サポーターが運営する地域高齢者の居場所『群大保健学まちなか交流サロン』
保健学研究科	看護学講座 リハビリテーション学講座	常盤 洋子 教授 牛久保 美津子 教授 外里 富佐江 教授	多職種協働による子どもの育ちと親支援事業－看護・リハビリテーション連携による子育て中の母親のレスパイトケア－
理工学府	知能機械創製部門 環境創生部門 電子情報部門	篠塚 和夫 学府長 石間 経章 教授	桐生地区の伝統的技術の発掘と調査
理工学府	環境創生部門 知能機械創製部門	黒田 真一 教授 林 偉民 教授 中沢 信明 准教授	地域連携・大学連携による若手・女性Makersフォーラム
理工学府	分子科学部門 環境創生部門 知能機械創製部門 電子情報部門	大澤 研二 教授 板橋 英之 教授 石間 経章 教授 山崎 浩一 教授	高校生サイエンスインストラクター育成プログラム
生体調節研究所	代謝シグナル解析分野 他	原 太一 准教授 佐藤 隆史 准教授 佐々木 努 准教授	最先端生命科学セミナー

こども体験教室「群馬ちびっこ大学」



土星の世界をのぞいてみよう！



光通信を体験してみよう



鏡の世界を体験しよう



DNAの模型ストラップを作ろう！



☆キラキラ回るカレイドスコープ☆

公開講座 (平成28年度)

Aコース「一般の方」対象

講座名	期間及び時間数	募集人数
企業・産業分析スキル特論 (金融ビジネスの基礎から実際まで)	9日 (22.5時間)	26人
体感！源氏物語の世界 —まめ人夕霧の「恋」をめくって—	2日 (5時間)	人数制限無し
留学生との交流実践を通して学ぶ「異文化間コミュニケーショントレーニング」講座	3日 (6時間)	20人
市民のための憲法講座～司法権を学ぶ	3日 (4.5時間)	30人
社会起業家特論 (ビジネスプラン策定スキル)	9日 (22.5時間)	26人

Bコース「専門技術者等」対象

講座名	期間及び時間数	募集人数
薬剤師力を高めよう！薬剤師のためのフィジカルアセスメント・分野編 (高齢者医療) ①②	2日 (12時間)	16人
聴覚障害児の教育	2日 (15時間)	30人
視覚障害児の理解	2日 (15時間)	30人
障害児教育総論	2日 (15時間)	30人
病弱児教育総論	2日 (15時間)	30人
LD等教育総論	2日 (15時間)	30人



平成27年度公開講座Aコース
「詩のこころを聴くVOL. 1～2」



平成27年度公開講座Aコース
体感！源氏物語の世界—木木の「恋」のゆくえ—



平成27年度公開講座Aコース
市民のための憲法講座

開放講座 (平成28年度)

Aコース「一般の方」対象

講座名	期間及び時間数	募集人数
途上国！行ってみたらこんなトコ！	1日 (2時間)	50人
世界脳週間2016「脳大学」	1日 (5時間)	100人
サイエンスカフェ in 桐生①～⑤	5日 (7.5時間)	20人
地域の伝統文化に親しもう 人形芝居のたのしみ	3日 (6時間)	100人
国際協力、はじめの一歩！	1日 (5時間)	20人
電気を安全に扱うために	1日 (2時間)	20人
目に見えない微粒子をイオンビームで見る ～イオンビーム分析の環境科学への貢献～	1日 (2時間)	50人
意思決定の不思議な世界！	1日 (2時間)	20人
市民のための憲法講座～終戦記念日に憲法を学ぶ	3日 (4.5時間)	30人
シリーズ～ここでしか聞けない医学・科学の話、あれこれ	12日 (18時間)	30人
シベリア抑留の詩人石原吉郎の誌とエッセイを読む	2日 (3時間)	30人
薬剤耐性菌～薬の効かない細菌はどのようにして現れ広がってゆくのか～	1日 (2時間)	50人
サイエンスカフェ in 前橋①②	2日 (3時間)	20人

Bコース「専門技術者等」対象

講座名	期間及び時間数	募集人数
英語教師の英語力アップ講座1：英語で授業を行うための「発音力UP」ワークショップ	1日 (2時間)	40人
英語教師の英語力アップ講座2：英語で授業を行うための「流暢さUP」ワークショップ	1日 (2時間)	50人
からだであそぼう!! からだでうたおう!! みんなでまなぼう!!①～⑤	5日 (15時間)	20人
手話で学ぶ手話学講座	2日 (10.5時間)	20人



平成27年度開放講座Bコース
英語教師の英語力アップ講座2



平成27年度開放講座Bコース
からだであそぼう!! からだでうたおう!! みんなでまなぼう!!

学生の数

学部

平成28年5月1日現在（人）

学部	学科等	入学定員	収容定員	現 員																				
				1年次			2年次			3年次			4年次			5年次			6年次			計		
				男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
教育学部	学校教育教員養成課程	220	880	101	130	231	106	121	227	106	118	224	129	121	250							442	490	932
社会情報学部	社会情報学科	100	100	50	50	100																50	50	100
	情報行動学科	(10)	170				24	30	54	28	36	64	23	42	65							75	108	183
	情報社会科学科	(10)	170				25	24	49	32	31	63	44	26	70							101	81	182
	計	100(20)	440	50	50	100	49	54	103	60	67	127	67	68	135							226	239	465
医学部	医学科	108[15]	723	84	28	112	109	42	151	90	42	132	75	33	108	84	42	126	76	44	120	518	231	749
	保健学科	160(10)	660	32	136	168	24	138	162	33	133	166	34	134	168							123	541	664
	計	268 [15] (10)	1,383	116	164	280	133	180	313	123	175	298	109	167	276	84	42	126	76	44	120	641	772	1,413
理工学部	化学・生物化学科	160	640	89	86	175	101	73	174	95	71	166	95	62	157							380	292	672
	機械知能システム理工学科	110	440	112	5	117	126	4	130	118	7	125	107	6	113							463	22	485
	環境創生理工学科	90	360	73	22	95	76	27	103	85	24	109	65	16	81							299	89	388
	電子情報理工学科	120	480	126	9	135	112	16	128	141	15	156	120	16	136							499	56	555
	総合理工学科*	30	120	16	14	30	28	7	35	27	4	31	25	5	30							96	30	126
工学部	昼間コース	応用化学・生物化学科			1	1	2	2	4	4	4	11	2	13							18	2	20	
		機械システム工学科					3	3	1	1	13	2	15							17	2	19		
		生産システム工学科									4	4							4	4				
		環境プロセス工学科					1	1	1	1	1	1	1							3	3			
		社会環境デザイン工学科								1	1	8	2	10							9	2	11	
		電気電子工学科								6	6	3	1	4							9	1	10	
	情報工学科								6	1	7	4	4							10	1	11		
夜間主コース	生産システム工学科										7	7							7	7				
	計	510(30)	2,040 [60]	417	136	553	449	127	576	485	122	607	463	112	575							1,814	497	2,311
	合計	1,098 [15] (60)	4,743 [60]	684	480	1,164	737	482	1,219	774	482	1,256	768	468	1,236	84	42	126	76	44	120	3,123	1,998	5,121

【 】内の数字は2年次編入学定員を表し、外数である。（ ）内の数字は3年次編入学定員を表し、外数である。理工学部の編入学定員は学科共通。

[]内の数字は理工学部学科共通収容定員を表し、外数である。

*夜間主コース（フレックス制）

大学院

平成28年5月1日現在 (人)

研究科等	専攻	入学定員	収容定員	現 員																				
				1年次			2年次			3年次			4年次			5年次			計					
				男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計			
教育学研究科	修士課程	障害児教育専攻	3	6	1	3	4	1	4	5									2	7	9			
		教科教育実践専攻	20	40	15	8	23	16	10	26									31	18	49			
		小計	23	46	16	11	27	17	14	31									33	25	58			
	専門職学位課程	教職リーダー専攻	16	32	6	13	19	8	9	17									14	22	36			
	計	39	78	22	24	46	25	23	48									47	47	94				
社会情報学研究科	社会情報学専攻	14	28	3	7	10	7	9	16									10	16	26				
医学系研究科	修士課程	生命医科学専攻	15	30	8	8	16	7	3	10								15	11	26				
	博士課程	医科学専攻	57	228	41	15	56	46	21	67	48	19	67	79	25	104		214	80	294				
	計	72	258	49	23	72	53	24	77	48	19	67	79	25	104		229	91	320					
保健学研究科	博士前期課程	保健学専攻	50	100	29	21	50	26	29	55								55	50	105				
	博士後期課程	保健学専攻	10	30							4	8	12	7	3	10	16	23	39	27	34	61		
	計	60	130	29	21	50	26	29	55	4	8	12	7	3	10	16	23	39	82	84	166			
理工学府	博士前期課程	物質・生命理工学教育プログラム	300	600	68	37	105	71	27	98								139	64	203				
		知能機械創製理工学教育プログラム			70	5	75	66	4	70									136	9	145			
		環境創生理工学教育プログラム			39	10	49	40	15	55									79	25	104			
		電子情報・数理教育プログラム			95	9	104	101	2	103									196	11	207			
		計			300	600	272	61	333	278	48	326								550	109	659		
	博士後期課程	物質・生命理工学領域	39	117							4	3	7	6	2	8	8	2	10	18	7	25		
		知能機械創製理工学領域											6		6		6	9	1	10	21	1	22	
		環境創生理工学領域											5	3	8	6	2	8	4		4	15	5	20
		電子情報・数理領域											4	1	5	2		2	3		3	9	1	10
		計			39	117							19	7	26	20	4	24	24	3	27	63	14	77
計	339	717	272	61	333	278	48	326	19	7	26	20	4	24	24	3	27	613	123	736				
工学研究科	博士前期課程	応用化学・生物化学専攻																						
		機械システム工学専攻																						
		生産システム工学専攻						1	1										1	1				
		環境プロセス工学専攻																						
		社会環境デザイン工学専攻																						
		電気電子工学専攻																						
		情報工学専攻																						
	小計								1	1									1	1				
	博士後期課程	工学専攻														19		19	19		19			
		旧専攻 生産工学専攻 ナノ材料システム工学専攻																						
小計															19		19	19		19				
計								1	1					19		19	19	1	20					
課程別内訳	修士課程及び博士前期課程	402	804	328	108	436	335	104	439									663	212	875				
	博士課程及び博士後期課程	106	375	41	15	56	46	21	67	90	34	124	106	32	138	40	26	66	323	128	451			
	専門職学位課程	16	32	6	13	19	8	9	17									14	22	36				
合計	524	1,211	375	136	511	389	134	523	90	34	124	106	32	138	40	26	66	1,000	362	1,362				

専攻科

平成28年5月1日現在 (人)

専攻科	専攻	入学定員	収容定員	現 員		
				男	女	計
特別支援教育特別専攻科	重複障害教育専攻	15	15	4	7	11

入学志願状況等

平成28年4月1日現在（人）

入学志願状況（平成28年度）

学 部	入学定員	入学志願者数				入学者数		
		男	女	計	倍率	男	女	計
教 育 学 部	220	449 (3)	503 (2)	952 (5)	4.3	101	130	231
社会情報学部	100	214 (3)	166 (2)	380 (5)	3.8	50	50	100
医 学 部	268	492	711 (1)	1,203 (1)	4.5	112	160	272
理 工 学 部	510	915 (23) [8]	287 (4) [3]	1,202 (27) [11]	2.4	395 (3) [8]	128 (3) [3]	523 (6) [11]
計	1,098	2,070 (29) [8]	1,667 (9) [3]	3,737 (38) [11]	3.4	658 (3) [8]	468 (3) [3]	1,126 (6) [11]

注：（ ）内の数字は私費外国人留学生入試を表し、外数である。
 []内の数字はマレーシア政府派遣留学生を表し、外数である。

2年次編入学（平成28年度）

学 部 等	入学定員	入学志願者数				入学者数		
		男	女	計	倍率	男	女	計
医学部医学科	15	167	102	269	17.9	12	3	15

3年次編入学（平成28年度）

学 部 等	入学定員	入学志願者数				入学者数		
		男	女	計	倍率	男	女	計
社会情報学部	20	48	55	103	5.2	6	15	21
医学部保健学科	10	7	9	16	1.6	5	1	6
理 工 学 部	30	82	12	94	3.1	26	6	32
計	60	137	76	213	3.6	37	22	59

注：理工学部の編入者は、ハノイ工科大学ツイニング・プログラム入学者2名【理工学部機械知能システム理工学科】を含む。

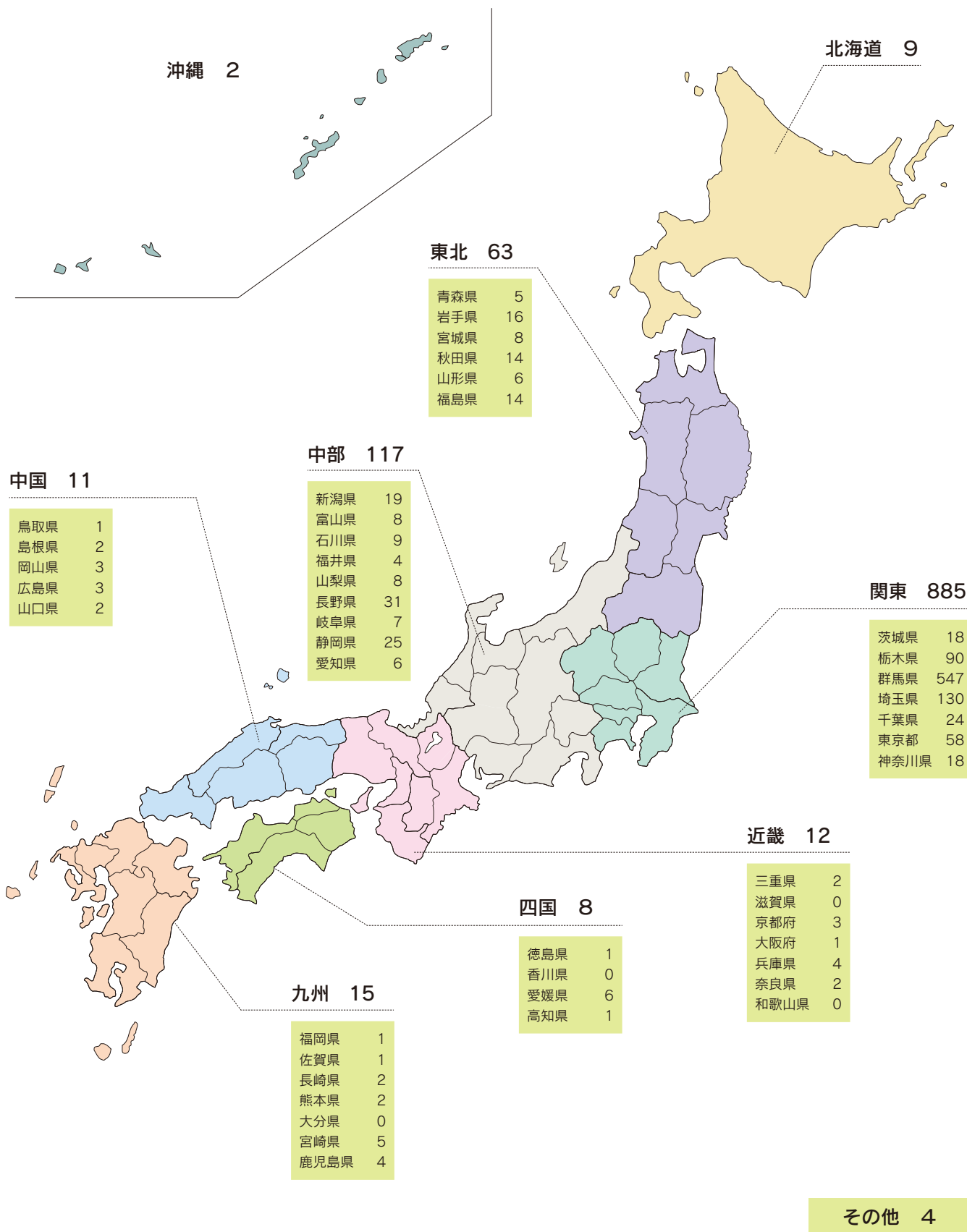


入学式

学部入学者の出身地区別内訳

(平成28年度)

平成28年4月1日現在 (人)
※外国人留学生を除く



卒業・修了者数・学位授与者数

平成28年5月1日現在（人）

平成27年度卒業・修了者数

区分 学部	学部	大 学 院									専攻科	合 計
		修士課程			博士課程			専門職学位課程				
		男	女	小計	男	女	小計	男	女	小計		
教育学部	219	16	11	27				7	7	14	11	271
社会情報学部	126	6	8	14								140
医学部	278	24	22	46	39	14	53					377
理工学部	2	274	42	316	7	1	8					326
工学部	546	1	0	1	6	0	6					553
計	1,171	321	83	404	52	15	67	7	7	14	11	1,667

卒業・修了者数（累計）

区分 学部	学部	大学院			専攻科	臨時教員 養成課程	2年課程	合 計
		修士課程	博士課程	専門職 学位課程				
教育学部	16,636	938		107	376	235	1,419	19,711
社会情報学部	2,244	218						2,462
医学部	8,192	785	1,680					10,657
理工学部	2	622	10					634
工学部	27,121	7,367	509		47			35,044
計	54,195	9,930	2,199	107	423	235	1,419	68,508
医療技術短期大学部	2,647				340			2,987
工業短期大学部	4,886							4,886

学位授与者数（累計）

種 類	計
博士（医学）	2,989
課程修了	1,584
論文提出	1,405
博士（保健学）	101
課程修了	96
論文提出	5
博士（理工学）	10
課程修了	10
論文提出	
博士（工学）	632
課程修了	509
論文提出	123
修士（教育学）	938
修士（社会情報学）	218
修士（生命医科学）	88
修士（保健学）	697
修士（理工学）	622
修士（工学）	7,366
教職修士（専門職）	107

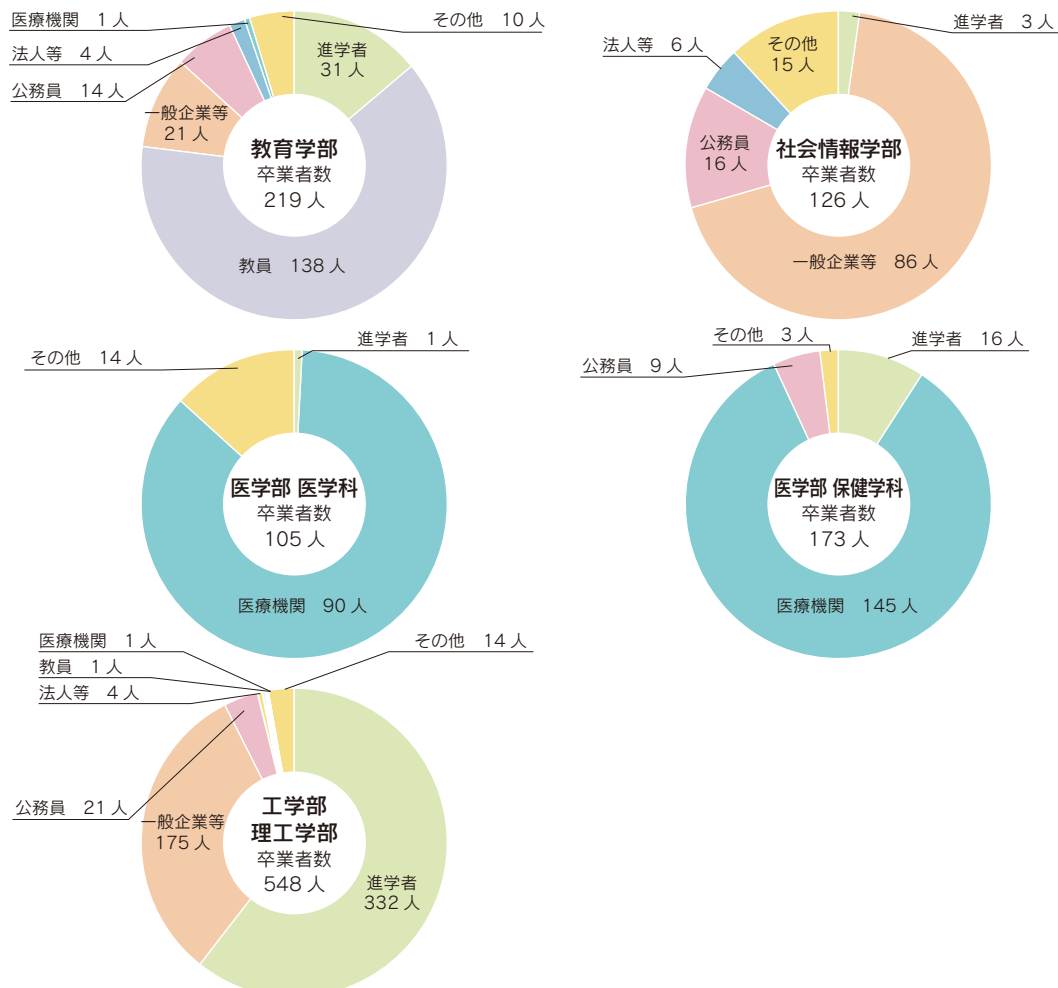


学位記授与式

卒業後の状況

平成28年5月1日現在 (人)

学部卒業者の進路状況 (平成27年度 ※9月卒業者を含む)



大学院修了者の進路状況 (平成27年度 ※年度内修了者を含む)

研究科	区分	修了者数	進学者数	就職者数						その他	
				教員	医療機関	一般企業等	公務員	自営業	法人等		計
教育学研究科	修士課程	41	1	36			2		1	39	1
	専門職学位課程										
社会情報学研究科	修士課程	14				6				6	8
医学系研究科	修士課程	11	2	2	1	6				9	
	博士課程	43		5	31	1			1	38	5
保健学研究科	博士前期課程	35	5	7	20	1	2			30	
	博士後期課程	10		4	6					10	
工学研究科	博士前期課程	1				1				1	
	博士後期課程	6				4			2	6	
理工学府	博士前期課程	316	10			281	10		2	293	13
	博士後期課程	8				3			2	5	3
計		485	18	54	58	303	14	0	8	437	30

専攻科修了者の進路状況 (平成27年度)

専攻科	区分	修了者数	進学者数	就職者数						その他	
				教員	医療機関	一般企業等	公務員	自営業	法人等		計
特別支援教育特別専攻科		11		11						11	

国際交流協定

国際交流協定

■大学間協定 (40件 : 20ヶ国・1地域)

■学部間協定 (84件 : 21ヶ国・1地域)

アジア

中華人民共和国

西安交通大学 (平成13.12.4)
 廈門大学 (平成14.9.19)
 沈阳化工大学 (平成15.3.31)
 華北電力大学 (平成17.5.22)
 大連医科大学 (平成18.7.12)
 大連理工大学 (平成19.1.30)
 大連工業大学 (平成19.9.26)
 中国科学院過程工程研究所 (平成20.7.16)
 重慶交通大学 (平成21.3.25)
 海南大学 (平成21.7.29)
 南開大学生命科学学院 (平成14.11.2)
 中山大学化学・化学工程学院 (平成17.11.2)
 内蒙古大学生命科学学部 (平成19.2.13)

合肥工業大学 (計器科学及光電工学院) (平成20.2.23)
 上海交通大学 (機械工学部) (平成20.3.25)
 上海理工大学光学・電子情報工程学院 (平成20.7.28)
 成都理工大学地質災害防止及び地質環境保護国家重点
 実験室 (平成20.10.8)
 中国鉱業大学 (平成21.1.23)
 東北大学理学院 (平成21.2.28)
 清華大学機械工程学院 (平成21.3.29)
 西南交通大学機械工学部 (平成21.7.1)
 湖南科技大学 (平成21.10.16)
 河北工業大学材料学院 (平成22.3.20)
 揚州大学エネルギー源と動力工程学院 (平成24.6.26)
 揚州大学情報工程学院 (平成25.3.8)
 廈門理工学院光電通信工程学院 (平成25.7.22)
 天津大学精密儀器と光電子工学院 (平成26.11.7)
 湖南大学生物学部 (平成28.1.6)
 中日友好病院 (平成28.1.21)
 首都医科大学 (平成28.4.19)

大韓民国

嶺南大学校 (平成15.9.5)
 建国大学校 (平成19.3.6)
 韓国原子力医科学院 (平成19.10.18)
 ソウル大学校 (平成20.10.27)
 全南国立大学ホルモン研究センター (平成8.12.4)
 釜山国立大学 (薬学部) (平成18.4.17)
 ソウル科学技術大学校産業大学院 (平成21.1.1)
 韓国先端ケイ素材料研究教育センター (平成21.2.3)
 韓国科学技術院ナノサイエンス研究部門 (平成21.2.5)
 壇国大学校光機能エネルギー材料センター (平成21.5.22)
 木浦大学校工学部 (平成21.8.17)
 慶熙大学校工科大学 (平成21.12.14)
 延世大学校科学技術大学 (平成24.5.2)
 延世大学校工科大学 (平成25.1.30)
 忠南大学校 (平成27.8.11)
 仁濟大学校 (平成28.2.29)
 大邱大学 (平成28.3.29)

ヨーロッパ

ヨーロッパ

ハンガリー

カーロリ・ガーシュバル・カルピン派大学 (平成22.3.17)

スロベニア

リュブリャナ大学 (平成20.9.19)

ドイツ

ドイツ重イオン研究所ヘルムホルツセンター (平成20.11.18)
 ルール大学ボーム医学部胸部・心疾患外科クリニック及び心臓・糖尿病センター (平成26.9.3)

英国

グリンドウール大学 (平成20年度～)
 (旧北東ウェールズ高等教育インスティテュート) (昭和62.3.17)

シティ大学 (平成6.1.27)
 サンダーランド大学 (平成14.7.3)

フランス

地中海大学 (マルセイユ大学 II) (平成17.7.25)

モンペリエ大学国立化学大学院 (平成21.2.11)
 パリ電気電子エンジニア高等学院 (平成21.3.2)

イタリア

フィレンツェ大学 (平成15.4.16)

ロシア

クラスノヤルスク医科大学 (平成19.4.15)
 サラトフ農業大学食品工学 商品学部 (平成26.9.1)

アゼルバイジャン

バクー国立大学 (平成21.1.27)

ポーランド

ヤギェウオ大学 (平成24.3.29)

スウェーデン

ボローズ大学工学部 (平成24.2.22)
 カロリンスカ研究所 (平成27.11.11)

アジア

チェコ

オストラバ工科大学 (平成24.11.30)
 オストラバ工科大学 (平成27.10.29)

スペイン

バレンシア工科大学 (平成26.2.19)

オーストリア

ウィーン医科大学放射線治療教室 (平成26.4.14)

クロアチア

ザグレブ大学人文社会学部 (平成26.7.2)

ベルギー

リエージュ大学医学部並びにゲノプロテオミックス際応用グループ (平成26.10.2)
 リエージュ大学 (平成27.8.14)

リトアニア

リトアニア教育大学 (平成27.11.25)

オセアニア

台湾

東海大学 (平成15.6.27)
 国立台北教育大学 (平成18.3.24)
 国立虎尾科技大学 (平成25.1.21)

龍華科技大学工程学院 (平成18.12.13)
 義守大学医学部 (平成26.5.27)
 国立勤益科技大学 (平成27.4.30)
 世新大学 (平成27.12.28)

フィリピン

フィリピン大学マニラ校 (平成21.2.16)

モンゴル

モンゴル国立医学科学大学 (平成24.10.5)

マレーシア

マレーシア国立大学 (平成21.2.23)
 ペトロナス工科大学 (平成25.7.30)
 バハン大学 (平成26.9.9)
 マラ技術大学トレンガヌ校 (平成27.6.5)

ベトナム

ハノイ工科大学 (機械工学部) (平成20.1.23)
 ベトナム原子力研究所ハノイ照射センター (平成25.2.23)

インドネシア

バジャジャラン大学 (平成8.9.20)
 インドネシア教育大学 (平成21.3.16)

バンドン工科大学数理・自然科学部 (平成22.10.11)

シンガポール

南洋理工大学 (平成27.3.20)

バングラデシュ

ダッカ大学 (平成22.12.12)

タイ

チェンマイ大学 (平成19.9.11)

モンクット王ラカバン工科大学 (平成20.12.12)
 ラジャマンガラ工科大学産業工学部 (平成21.5.26)
 泰日工業大学 (平成21.7.21)
 マヒドル大学理学部 (平成23.2.22)
 ナコンパトナムラチャット大学理工学部 (平成24.2.2)
 チュロンコン大学工学部 (平成24.12.4)
 モンクット王トンブリ工科大学 (平成25.5.10)
 ラジャマンガラ工科大学工学部 (平成26.1.28)
 ランシット大学 (平成28.1.7)

インド

アリガルモスリム大学 (平成18.3.22)
 インド工科大学テリー校 (平成22.1.18)

北米

カナダ

オタワ大学 (平成13.11.26)
 プリティッシュコロンビア大学 (平成16.3.31)
 ライアソン大学 (平成24.9.28)

アメリカ合衆国

ノースダコタ州立大学 (平成22.5.27)
 サンディエゴ州立大学 (平成23.3.3)
 ニューヨーク州立大学ストーニーブルック校 (平成25.7.12)

シアトル・パシフィック大学 (平成8.10.1)
 ワシントン大学 (医学部) (平成14.4.2)
 ワシントン大学 (工学部) (平成18.6.26)
 マサチューセッツ総合病院 Francis H. Burr 陽子線治療センター/
 放射線腫瘍学科 (平成20.5.6)
 d/b/a メイヨクリニック メイヨクリニックロチェスター
 放射線腫瘍学科 (平成20.10.23)
 マーシャル大学生物学部 (平成21.6.29)
 ビュージェット・サウンド大学大学院 (平成23.10.3)
 ミズーリ州立大学 (平成27.3.6)
 モアヘッド州立大学 (平成27.12.16)

中南米

中南米 ニカラグア

ニカラグア国立自治大学マナグア校 (平成17.7.1)

コロンビア

サバナ大学 (平成16.4.20)

ブラジル

サンパウロ大学 (平成21.2.20)

ペルー

ペルーボンティフィシアカトリック大学 (平成20.3.25)

オセアニア

オーストラリア

マッコーリー大学 (平成15.6.7)
 ウーロンゴン大学 (平成26.7.15)

外国人留学生数

「国費」… 文部科学省国費外国人留学生
 「私費」… 私費外国人留学生

※外国政府（マレーシア政府派遣など）の奨学金を受給する者及びJASSOの留学生対象奨学金、民間の奨学金を受給する者を含む。

平成28年5月1日現在（人）

地域	国名	学部学生		大学院学生				研究生				聴講生	特別聴講学生				特別研究学生		計		合計
		国費	私費	修士課程		博士課程		学部		大学院		県費	学部		大学院		国費	私費	国費	私費	
				国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費		国費	私費	国費	私費					
アジア (13ヶ国) 1地域	中国		8	1	27	3	16		8					10				4	4	73	77
	マレーシア	1	44																1	44	45
	インドネシア	2		3	4	3	7							2					8	13	21
	ベトナム		11	2	3	1	1												3	15	18
	モンゴル	1	3	3	2	4	3											2	8	10	18
	タイ			3		1	2	1						2					5	4	9
	台湾				2									4						6	6
	ネパール				2	2	1												2	3	5
	スリランカ		1		1		1							1					1	3	4
	韓国						2							1						3	3
	ラオス	1			2														1	2	3
	フィリピン					2													2		2
	カンボジア		1		1															2	2
インド						1													1	1	
	小計	5	68	12	44	16	34	1	8				1	19			6	35	179	214	
中近東 (1ヶ国)	イラン					1													1	1	
	小計					1													1	1	
北米 (1ヶ国)	アメリカ合衆国					1							2						1	2	3
	小計					1							2						1	2	3
中南米 (1ヶ国)	コスタリカ							1											1	1	
	小計							1											1	1	
ヨーロッパ (5ヶ国)	ハンガリー			1									1						2	2	
	イタリア												1						1	1	
	スロベニア			1															1	1	
	ポーランド												1						1	1	
	ベラルーシ												1						1	1	
	小計			2									4						6	6	
合計 (21ヶ国 1地域)		5	68	14	44	18	34	2	8				5	21			6	44	181	225	

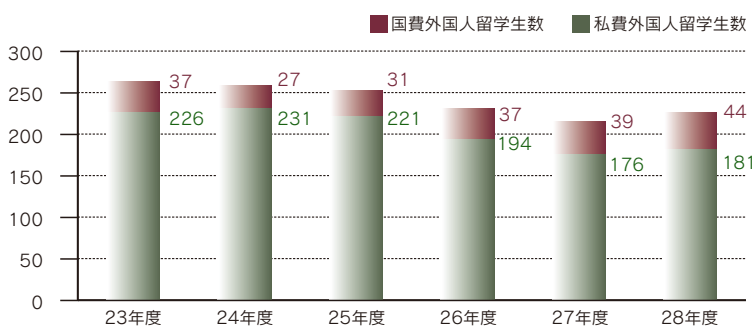
学部・研究科等別内訳

教育学部・教育学研究科				2	3			2	1				2	9				6	13	19
社会情報学部・社会情報学研究科				2	8				4				3	4				5	16	21
医学部医学科・医学系研究科	1			5	3	15	18		1									21	22	43
医学部保健学科・保健学研究科				2			1											2	2	3
理工学部・理工学府*	4	68		3	30	3	15		2				8					4	10	127
計		73			110				10				26				6		225	

*工学部、工学研究科の学生を含む。

国費・私費外国人留学生数

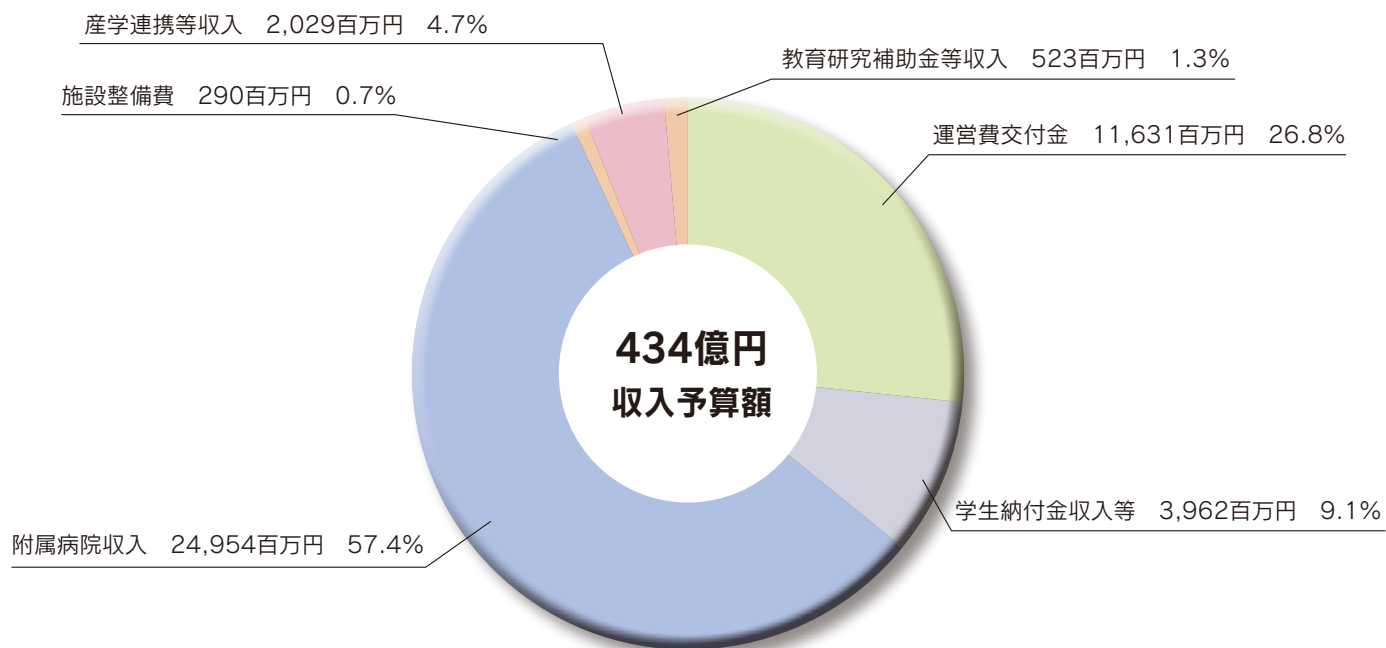
平成23～28年度（人）



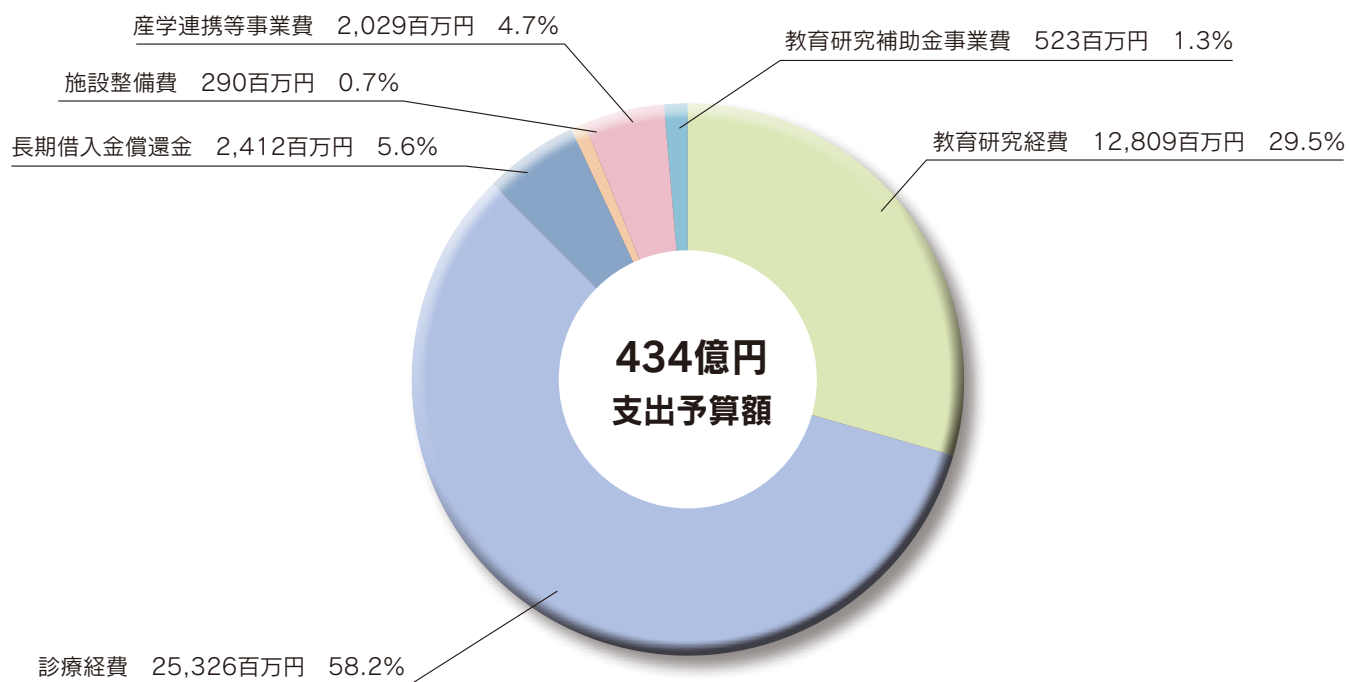
日本文化体験授業（茶道）

平成28年度収入・支出予算額

収入



支出



※平成27事業年度の決算については、文部科学大臣の承認後、本学のホームページにおいて公表することとしております。(6月末現在)

研究費等受入状況

平成28年5月1日現在 (千円)

科学研究費助成事業採択状況 (平成28年度)

研究種目	採択件数	金額
新学術領域研究	10	40,900
基盤研究(A)	1	8,200
基盤研究(B)	43	149,900
基盤研究(C)	240	266,400
挑戦的萌芽研究	53	64,100
若手研究(A)	4	12,000

研究種目	採択件数	金額
若手研究(B)	79	75,900
研究活動スタート支援	4	3,600
研究成果公開促進費	2	3,400
奨励研究	5	2,610
特別研究員奨励費	8	7,700
国際共同研究加速基金(国際共同研究強化)	3	7,600
計	452	642,310

その他の科学研究費補助金 (平成27年度)

研究種目	件数	金額
がん対策推進総合研究事業	3	5,466
障害者対策総合研究事業	1	5,700
地域医療基盤開発推進研究事業	1	6,600
肝炎等克服政策研究事業	1	1,400
認知症対策総合研究事業	1	600

研究種目	件数	金額
難治性疾患等克服研究事業	6	1,650
医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業	1	1,100
食品の安全確保推進事業	1	800
厚生労働科学特別研究事業	1	100
計	16	23,416

補助金等 (平成27年度)

区分	件数	金額
大学改革推進等補助金	2	33,996
研究拠点形成費等補助金	3	306,082
科学技術人材育成費補助金	5	145,032
国立大学改革強化推進補助金	1	67,500
戦略的国際研究交流推進事業費補助金	1	25,780
中小企業経営支援等対策費補助金	2	8,499
文化芸術振興費補助金	1	5,582
国宝重要文化財等保存整備費補助金	1	4,219

区分	件数	金額
医療研究開発推進事業費補助金	1	4,000
二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金	1	1,997
群馬県地域医療再生基金事業費補助金	1	29,234
群馬県地域医療介護総合確保基金事業費補助金	4	15,176
感染症指定医療機関運営事業費補助金	1	9,258
群馬県死亡画像診断システム等整備費補助金	1	4,483
群馬県在宅医療総合推進事業費補助金	1	300
計	26	661,138

寄附金 (平成27年度)

区分	件数	金額
寄附金	1,824	1,041,718

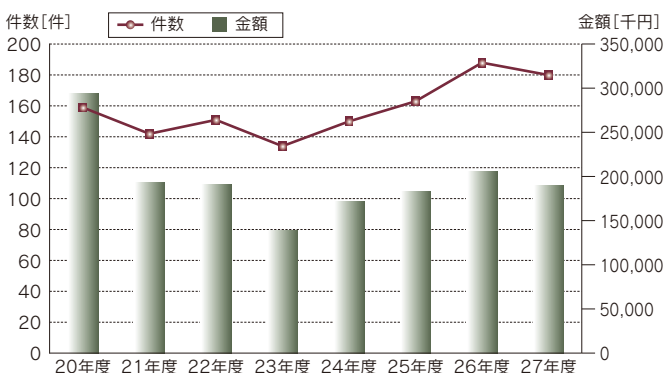
受託研究 (平成27年度)

区分	件数	金額
受託研究	124	464,367

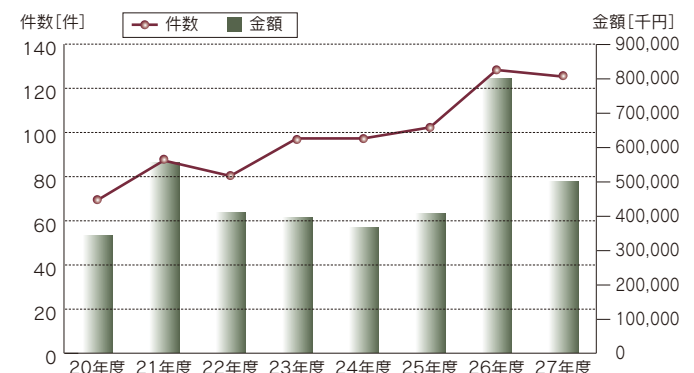
共同研究 (平成27年度)

区分	件数	金額
共同研究	180	189,309

民間等との共同研究受入状況



民間等との受託研究受入状況



職員の数・土地・建物面積

職員の数

平成28年5月1日現在 (人)

区 分	役 員	教 員							事務等 技術職員	合 計
		教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	教 論	養護教諭		
事 務 局 等	6								139	145
教 育 学 部		38	40	5				4	20	192
大 学 院 教 育 学 研 究 科		7	1	2						10
社 会 情 報 学 部		13	10	1		1			8	33
医 学 部									16	16
大 学 院 医 学 系 研 究 科		37	26	24	77					164
大 学 院 保 健 学 研 究 科		32	12	11	27					82
昭 和 地 区 事 務 部									158	158
理 工 学 部									56	56
大 学 院 理 工 学 府		73	74	2	47	1			1	198
生 体 調 節 研 究 所		7	7	1	14				4	33
先端科学研究指導者育成ユニット				1	4					5
総合情報メディアセンター		1		1					4	6
研究・産学連携戦略推進機構		1	1	1					6	9
重粒子線医学推進機構		3		1	10					14
未来先端研究機構		2	3		7					12
国際教育・研究センター			2	4						6
大学教育・学生支援機構		3	3	3					1	10
男女共同参画推進室				1						1
テニユアトラック普及推進室				1						1
医学部附属病院		1	12	35	158				1,000	1,206
合 計	6	218	191	94	344	2	85	4	1,413	2,357

土地・建物面積

平成28年5月1日現在 (単位：㎡)

地 区	部 局 等	土地面積	建物延面積
荒 牧 地 区	教 育 学 部 大 学 院 教 育 学 研 究 科 社 会 情 報 学 部 大 学 院 社 会 情 報 学 研 究 科 総 合 情 報 メ デ ィ ア セ ン タ ー 大 学 教 育 ・ 学 生 支 援 機 構 研 究 ・ 産 学 連 携 戦 略 推 進 機 構 国 際 教 育 ・ 研 究 セ ン タ ー 事 務 局 等	255,763	45,675
昭 和 地 区	医 学 部 大 学 院 医 学 系 研 究 科 大 学 院 保 健 学 研 究 科 医 学 部 附 属 病 院 生 体 調 節 研 究 所 重 粒 子 線 医 学 推 進 機 構 昭 和 地 区 事 務 部 等	161,631	(581) 178,056
若 宮 地 区	教 育 学 部 附 属 幼 稚 園 教 育 学 部 附 属 小 学 校 教 育 学 部 附 属 特 別 支 援 学 校	37,990	13,480
上 沖 地 区	教 育 学 部 附 属 中 学 校	37,430	6,700
桐 生 地 区	理 工 学 部	103,021	68,007
太 田 地 区	大 学 院 理 工 学 府	(8,696)	(4,561)
その他の地区 (前橋市、桐生市、草津町、渋川市、長野原町)	学 生 寄 宿 舎 教 職 員 宿 舎 等 草 津 共 同 利 用 研 修 施 設 伊 香 保 研 修 所 北 軽 井 沢 研 修 所	(12,084) 36,199	18,945
合 計		(20,780) 632,034	(5,142) 330,863

※ ()内の数字は借用面積で外数。

学部等所在地

符号	学部等の名称	所在地	電話
	事務局	〒371-8510 前橋市荒牧町4-2	(027)220-7005 (総務係)
	総務部		(027)220-7044 (総務・監査係)
	財務部		(027)220-7125 (総務係)
	学務部		(027)220-7512 (総括係)
	研究推進部		(027)220-7084 (企画・総務係)
	施設運営部		(027)220-7017
	荒牧地区環境美化室		(027)220-7204 (総務係)
	教育学部		(027)231-3170
	〃 附属学校教育臨床総合センター		(027)231-2804 (代)
	〃 附属幼稚園	〒371-0032 前橋市若宮町2-5-3	(027)231-3023 (代)
	〃 附属小学校	〒371-0032 前橋市若宮町2-8-1	(027)232-9758
	〃 附属中学校	〒371-0052 前橋市上沖町612	(027)220-7204 (総務係)
	〃 附属特別支援学校	〒371-0032 前橋市若宮町2-8-1	(027)220-7403 (総務係)
A	大学院教育学研究科	〒371-8510 前橋市荒牧町4-2	(027)220-7111 (代)
	社会情報学部	〒371-8510 前橋市荒牧町4-2	
	大学院社会情報学研究科		
	医学部		
	大学院医学系研究科		
	〃 附属生物資源センター		
	〃 附属薬剤耐性菌実験施設	〒371-8511 前橋市昭和町3-39-22	
	〃 附属教育研究支援センター		
	〃 附属医学教育センター		
	大学院保健学研究科		
	〃 附属保健学研究・教育センター	〒371-8514 前橋市昭和町3-39-22	
	多職種連携教育 研究研修センター		
	医学部附属病院	〒371-8511 前橋市昭和町3-39-15	
B	理工学部	桐生キャンパス 〒376-8515 桐生市天神町1-5-1	(0277)30-1111 (代)
		太田キャンパス 〒373-0057 太田市本町29-1	(0276)50-2231 (代)
F	理工学府附属元素科学 国際教育研究センター	桐生キャンパス 〒376-8515 桐生市天神町1-5-1	(0277)30-1111 (代)
A	生体調節研究所		
	〃 附属生体情報ゲノム リソースセンター		
	〃 附属代謝シグナル 研究展開センター	〒371-8512 前橋市昭和町3-39-15	(027)220-7111 (代)
	〃 附属生体情報シグナル 研究センター		

符号	学部等の名称	所在地	電話
	総合情報メディアセンター	〒371-8510 前橋市荒牧町4-2	(027)220-7185
	中央図書館		
	〃		
	情報基盤部門	〒371-8510 前橋市荒牧町4-2	(027)220-7391
A	〃		
	医学図書館	〒371-8513 前橋市昭和町3-39-22	(027)220-7889
	〃		
	情報基盤部門昭 and 分室		(027)220-8105
	〃		
B	理工学図書館	〒376-8516 桐生市天神町1-5-1	(0277)30-1079
	〃		(0277)30-1161
	情報基盤部門桐生分室		(027)220-7129
	大学教育・学生支援機構 教育基盤センター		(027)220-7136
	〃		
	学生支援センター	〒371-8510 前橋市荒牧町4-2	(027)220-7149
	〃		
A	学生受入センター		(027)220-7163
	〃		
	健康支援総合センター		
	研究・産学連携推進機構 研究・産学連携戦略本部	〒371-8510 前橋市荒牧町4-1	(027)220-7111 (代)
	〃		
	U R A 室	〒371-8511 前橋市昭和町3-39-22	
	〃		
	高度研究推進・支援部門 高度研究戦略室		
	〃		
	〃		
	機器分析センター		
	〃		
	高度人材育成部門 高度人材育成センター	〒376-8515 桐生市天神町1-5-1	(0277)30-1111 (代)
B	〃		
	研究支援人材育成コンソーシアム室		
	〃		
	産学連携・知的財産部門 産学連携・知的財産活用センター		
	〃		
	〃		
	リスクマネジメント室		
	重粒子線医学推進機構 重粒子線医学研究センター	〒371-8511 前橋市昭和町3-39-22	(027)220-7111 (代)
	〃		
	重粒子線医学センター	〒371-8511 前橋市昭和町3-39-15	
	国際教育・研究センター	〒371-8510 前橋市荒牧町4-2	(027)220-7628
A	テニユアトラック 普及推進室	〒371-8511 前橋市昭和町3-39-22	(027)220-7111 (代)
		〒376-8515 桐生市天神町1-5-1	(0277)30-1111 (代)
	未来先端研究機構	〒371-8511 前橋市昭和町3-39-22	(027)220-7111 (代)
	男女共同参画推進室	〒371-8510 前橋市荒牧町4-2	(027)220-7111 (代)
C	伊香保研修所	〒377-0102 渋川市伊香保町 伊香保字香湯14-1	(0279)72-4605
D	草津共同利用研修施設	〒377-1711 吾妻郡草津町草津字白根737	(0279)88-2212
E	北軽井沢研修所	〒377-1412 吾妻郡長野原町北軽井沢 字南木山大橋2032-242	(0279)84-2273

学部等所在地分布図



建物配置図

荒牧地区 【所在地：前橋市荒牧町4-2】



教育学部



社会情報学部



自主自律の森（憩いの広場）



- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ① 教育学部
学校教育臨床総合センター ② 総合情報メディアセンター
(中央図書館／情報基盤部門) ③ 総合情報メディアセンター
(情報基盤部門荒牧センター) ④ 教職員等宿舎 ⑤ 基幹棟（中会議室他） ⑥ 健康支援総合センター ⑦ 荒牧地区環境美化室 ⑧ 電話交換室 ⑨ 倉庫 ⑩ 事務局
研究・産学連携推進機構 ⑪ 守衛所 ⑫ 社会情報学部 | <ul style="list-style-type: none"> ⑬ 学生センター（教養教育GA棟）
大学教育・学生支援機構 ⑭ 教養教育GB棟・GC棟 ⑮ 教養大講堂 ⑯ 体育館・武道館 ⑰ 大学会館「アザレア」
ミューズホール
国際教育・研究センター ⑱ キャリアサポート室 ⑲ 体育管理施設 ⑳ 課外活動共用施設 ㉑ 合宿研修施設 ㉒ 憩いの広場 ㉓ 中央モール ㉔ 遊歩道 |
|---|--|

昭和地区

【所在地①：前橋市昭和町3-39-15（医学部附属病院ほか）】

【所在地②：前橋市昭和町3-39-22（医学部・生体調節研究所ほか）】



生体調節研究所



医学部保健学科



医学部附属病院



医学図書館

- | | |
|---|---------------------------------------|
| ① 医学部保健学科 | ⑱ 診療棟1 |
| ② 学生食堂 | ⑳ 診療棟3 |
| ③ 看護師宿舎 | ㉑ 病院基幹棟 |
| ④ 中央機械室 | ㉒ 診療棟2 |
| ⑤ 生体調節研究所
代謝シグナル研究展開センター
生体情報シグナル研究センター | ㉓ 北病棟 |
| ⑥ RI研究棟 | ㉔ 南病棟 |
| ⑦ 特高受電室 | ㉕ 外来診療棟 |
| ⑧ 生体情報ゲノムリソースセンター | ㉖ 課外活動施設、体育館 |
| ⑨ 生物資源センター（1） | ㉗ プロジェクト棟（1F：石井ホール） |
| ⑩ 生物資源センター（2） | ㉘ 中央診療棟 |
| ⑪ 医学部（臨床研究棟）（1F：黒梅ホール） | ㉙ 総合情報メディアセンター情報基盤部門昭和分室
（医学図書館1F） |
| ⑫ 医学部（基礎医学棟） | ㉚ 立体駐車場 南 |
| ⑬ 基礎講義棟 | ㉛ 重粒子線照射施設（重粒子線医学研究センター） |
| ⑭ 刀城会館（記念会館） | ㉜ 院内保育所（ゆめのこ保育園） |
| ⑮ 総合情報メディアセンター医学図書館 | ㉝ アメニティモール |
| ⑯ 共用施設棟 | ⑳ 東棟 |
| ⑰ 臨床講堂 | ㉞ 発電機室 |
| ⑱ 特別診療棟 | ㉟ 立体駐車場 北 |

桐生地区 【所在地：桐生市天神町1-5-1】



理工学図書館



総合研究棟



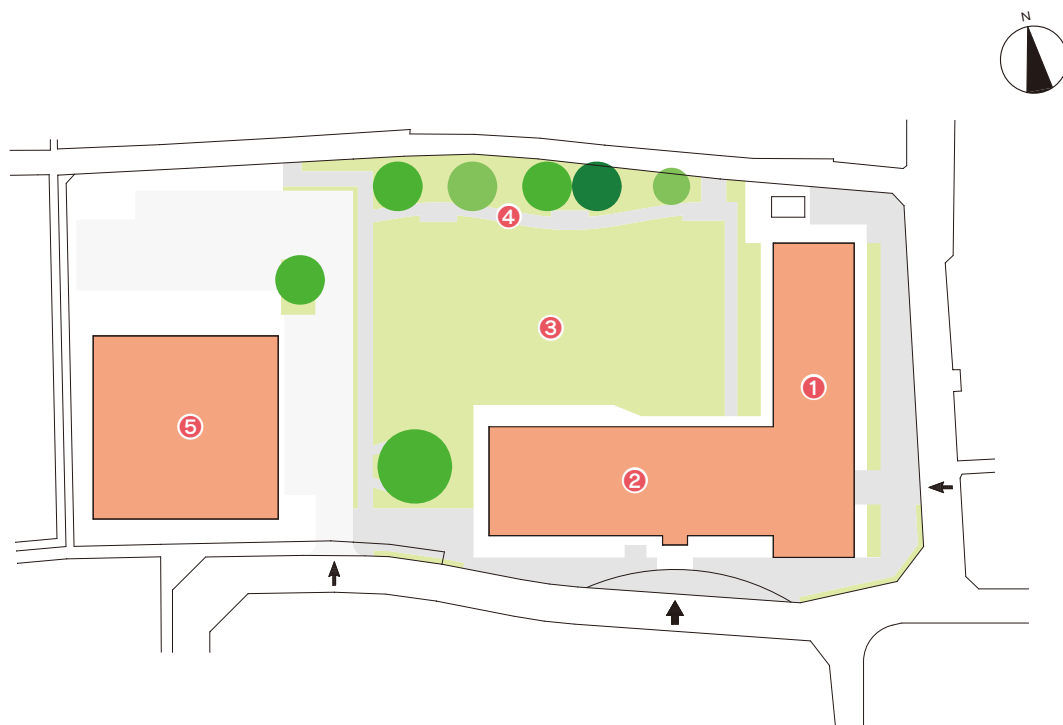
同窓記念会館



同窓記念会館 (内部)



- | | |
|-----------------------|---------------------------|
| ① A棟／研究・産学連携推進機構 | ①⑦ 6号館 |
| ② B棟／研究・産学連携推進機構 | ①⑧ 2号館 |
| ③ C棟／研究・産学連携推進機構 | ①⑨ 基幹棟 |
| ④ 同窓記念会館 | ①⑩ 3号館 |
| ⑤ 車庫 | ①⑪ 8号館N棟 |
| ⑥ 工学部会館 | ①⑫ 8号館S棟 |
| ⑦ 環境保全支援センター | ①⑬ 危険薬品庫 |
| ⑧ 7号館 | ①⑭ 特別実験棟 |
| ⑨ 実験棟 | ①⑮ RI実験施設 1,2 |
| ⑩ 1号館 | ①⑯ 原動機棟 |
| ⑪ 講義棟 | ①⑰ 研究推進支援センター |
| ⑫ 4号館 | ①⑱ 医理工共用研究棟 |
| ⑬ 5号館 | ①⑲ 体育館 |
| ⑭ 総合情報メディアセンター／理工学図書館 | ①⑳ 合宿所 |
| ⑮ プロジェクト棟 | ①㉑ 課外活動施設 |
| ⑯ 電子計算機棟 | ①㉒ 総合研究棟／機器分析センター |
| | ①㉓ 総合情報メディアセンター情報基盤部門桐生分室 |



太田キャンパス概観

- ① 大学院研究棟
- ② 産学研究棟
- ③ 交流広場
- ④ 散策路
- ⑤ ものづくりイノベーションセンター



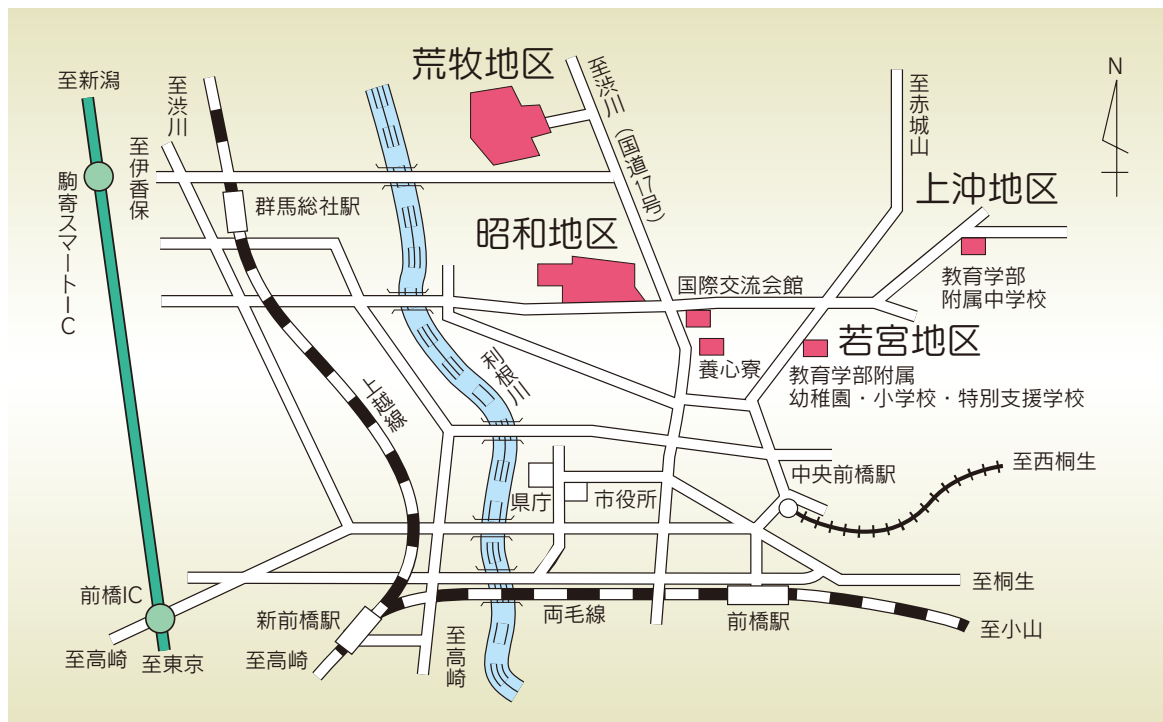
CAD (コンピュータ支援設計) ルーム



機械工作室

交通アクセス

荒牧・昭和・若宮・上沖地区



荒牧地区

JR

JR両毛線にて前橋駅下車、北方へ8Km

JR上越線・吾妻線にて新前橋駅下車、北方へ8.4Km

バス

JR前橋駅北口2番乗り場（関越交通バス）

- ・群馬大学荒牧經由渋川市内循環渋川駅行、小児医療センター行「群馬大学荒牧」下車（所要時間約28分）

- ・渋川駅行、渋川市内循環渋川駅行

「前橋自動車教習所前」下車（所要時間約25分＋徒歩10分）

JR新前橋駅東口乗り場（関越交通バス）

- ・群大病院 総合スポーツセンター行

「商工連会館前」下車（所要時間約32分＋徒歩5分）

昭和地区

JR

JR両毛線にて前橋駅下車、北方へ4Km

JR上越線・吾妻線にて新前橋駅下車、北方へ5.1Km

バス

JR前橋駅北口2番乗り場（関越交通バス）

- ・群大病院行・群大病院經由南橋団地行「群大病院」下車（所要時間約15分）

JR前橋駅北口3番乗り場（日本中央バス）

- ・群馬総社駅行「群大病院」下車（所要時間約15分）

JR前橋駅北口2番乗り場（関越交通バス）

- ・群馬大学荒牧經由渋川駅行、群馬大学荒牧經由渋川市内循環渋川駅行、渋川市内循環渋川駅行、小児医療センター行

「群大病院入口」下車（所要時間約13分＋徒歩6分）

JR新前橋駅東口乗り場（関越交通バス）

- ・群大病院 総合スポーツセンター行

「群大病院」下車（所要時間約21分）

- ・総合スポーツセンター行

「群大病院入口」下車（所要時間約17分＋徒歩6分）

若宮地区

JR

JR両毛線にて前橋駅下車、北方へ2Km

バス

JR前橋駅北口3番乗り場

- ・ 総合スポーツセンター方面行、湯の道利久行、群馬総社駅行「附属小前」下車（所要時間約5分）（日本中央バス）

JR前橋駅北口6番乗り場

- ・ 富士見温泉行「附属小前」下車（所要時間約5分）（関越交通バス・日本中央バス）
- ・ 国立赤城青少年交流の家行「附属小前」下車（所要時間約5分）（関越交通バス）
- ・ 嶺公園行、小坂子行、荻窪公園行「附属小前」下車（所要時間約5分）（永井バス）

上沖地区

JR

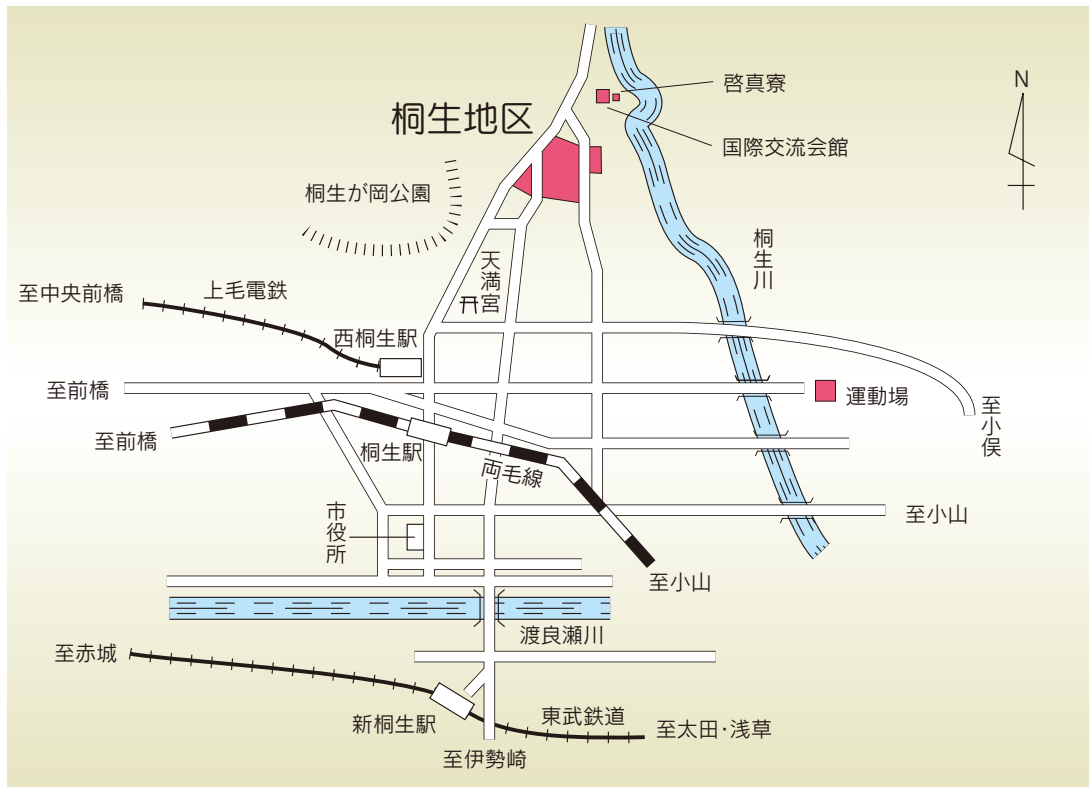
JR両毛線にて前橋駅下車、北方へ4Km

バス

JR前橋駅北口6番乗り場

- ・ 富士見温泉行「北代田」下車（所要時間約9分+徒歩15分）（関越交通バス）
- ・ 嶺公園行「県営住宅前」下車（所要時間約11分+徒歩10分）（永井バス）

桐生地区



桐生地区

JR

JR両毛線にて桐生駅下車、北方へ2.5Km

東武桐生線にて新桐生駅下車、北方へ4.1Km

バス

JR桐生駅北口乗り場（おりひめバス）

- ・ 桐生女子高前行・上菱団地行・梅田ふるさとセンター前行「群馬大学桐生正門前」下車（所要時間約7分）
- ・ 菱線右回り「群馬大学桐生東門前」下車（所要時間約7分）

東武新桐生駅乗り場（おりひめバス）

- ・ 桐生女子高前・上菱団地行「群馬大学桐生正門前」下車（所要時間約15分）

太田地区



太田地区

- 東武鉄道太田駅北口下車、徒歩約10分（市立太田小学校となり）
- 北関東自動車道 太田桐生ICから約10分



国立大学法人群馬大学徽章

昭和24年10月1日制定

周囲は群馬県の象徴である名勝赤城、榛名、妙義の上毛三山を浮彫りさせて大学を囲み、群馬大学の象徴としています。



国立大学法人群馬大学ロゴマーク

平成18年4月1日制定

群馬大学の英頭文字「G」をモチーフに緑と青で豊かな自然環境を示し、学生の成長と活躍をイメージして、新しい未来への創造と、社会へ貢献する大学の存在感を表現しています。

「ああ建学の」

■詞：梶田 一之 ■曲：相沢 聡 ■編曲：塚本 靖彦

1. たからかに果てなく響く歌声は
青春の歡喜の調べ
山あをく水きよら
ああ秀麗の国土とあかるく
わが希望かがやく姿よ
群馬大学 群馬大学
われらの学苑

2. たくましく生気に充つる歌声は
青春の至情の調べ
血はたぎり 胸をどり
ああ将来の文化をきずくと
わが理想もえたつ思いよ
群馬大学 群馬大学
われらの学苑

3. とうとうと^{だいち}大地をゆする歌声は
青春の叡智の調べ
^{たま}魂さやか ^{まへ}眉さとく
ああ^{しんおう}深奥の真理をみつむる
わが決意ゆるがぬ心よ
群馬大学 群馬大学
われらの学苑

4. すこやかに若やぎはづむ歌声は
青春の^{いのち}生命の調べ
^{あけ}暁しるし陽はいでて
ああ建学の理念のみちびく
わが前途あふるる光よ
群馬大学 群馬大学
われらの学苑



認証評価認定マーク

平成28年3月24日認定

独立行政法人大学評価・学位授与機構による平成27年度実施の大学機関別認証評価において、「本学は、大学設置基準をはじめ関係法令に適合し、大学評価・学位授与機構が定める大学評価基準を満たしている」と評価されました。



発行日

平成28年6月発行

編集

国立大学法人群馬大学総務部総務課広報係
〒371-8510 前橋市荒牧町四丁目2番地
TEL.027-220-7010 (7011) FAX.027-220-7012
URL:<http://www.gunma-u.ac.jp>

リサイクル適性 

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。



UNIVERSITY
ACCREDITED
March 2016